

令和 5年度 道路ストック総点検事業（道路構造物）
新富島橋補修工事

（工事設計図書） 設計書
（当初設計）

工事番号 道路維持 第19号

路線名等 市道苅屋黒崎線

工事箇所 たつの市御津町苅屋地内外

工 種 橋梁保全

工 事 費						概 要	
	実 施 (前回変更)	今 回 変 更		増 減 額		新富島橋 補修 橋面防水工 A=317㎡ 舗装工 A=354㎡ 伸縮装置取替工 L=30m 橋梁用高欄工 L=109m	
設 計 額 (内消費税額)	円 ()	円 ()	円 ()				
請 負 額 (内消費税額)	円 ()	円 ()	円 ()				
執行方法	請負	施工日数 または 施工期限	令和6年3月31日				
(起工理由) 							

契約数量表

頁0-0001/0004

費目・工種明細など		規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減
本工事費						
橋梁保全工事						
舗装工						
路面切削工						
路面切削						
路面切削		全面切削6cm超え12cm以下	m2		324	
殻運搬(路面切削)						
殻運搬(路面切削)			m3		25	
殻処分						
処分費		アスファルト殻	式		1	
橋面防水工						
橋面防水						
塗膜系防水			m2		317	
排水用導水管		φ 18mm 溶融亜鉛めっき鋼製	m		144	
成型目地材		幅35mm×厚さ5mm	m		104	
舗装打換え工						
舗装版切断						
舗装版切断(アスファルト舗装版)		As舗装版厚->15cm以下	m		28	

契約数量表

頁0-0002/0004

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減
舗装版破碎(小規模)					
舗装版破碎積込(小規模土工)		m2		41	
殻運搬					
殻運搬	舗装版破碎	m3		2	
運搬費		台		1	
殻処分					
処分費	アスファルト殻	式		1	
処分費	[汚泥(泥水)]	式		1	
上層路盤					
不陸整正	補足材料->有り(29mm以上34mm未満)	m2		37	
基層					
基層(車道・路肩部)	t = 4 0 mm	m2		317	
表層					
表層(車道・路肩部)	t = 4 0 mm	m2		317	
表層(車道・路肩部)	t = 5 0 mm	m2		37	
区画線工					
区画線工					
溶融式区画線					

契約数量表

頁0-0003/0004

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減
区画線設置〔溶融式〕	実線 15cm t=1.5mm	m		100	
橋梁付属物工					
伸縮継手工					
鋼・ゴム製伸縮装置補修					
橋梁用伸縮継手装置補修工	普通型 2車線相当施工	m		30	
地覆部シール工	シリコン系	m		4	
殻運搬					
運搬費		台		1	
殻運搬	コンクリート(無筋)構造物とりこわし	m3		0.2	
殻処分					
処分費	[廃プラスチック]	式		1	
処分費	コンクリート殻(無筋)	式		1	
橋梁用高欄工					
橋梁用高欄					
橋梁用高欄	設置方法→組立式	m		109	
コンクリート削孔(電動ハンマドリル)		孔		126	
コンクリート削孔(電動ハンマドリル)		孔		126	
橋梁補修工					

契約数量表

頁0-0004/0004

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減
断面修復工					
左官工法					
断面修復工（左官工法）		構造物		1	
構造物撤去工					
構造物取壊し工					
コンクリート構造物取壊し					
構造物とりこわし工	鉄筋構造物	m3		5	
運搬処理工					
殻運搬					
殻運搬	コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし	m3		5	
殻処分					
処分費	コンクリート殻(鉄筋)	式		1	
仮設工					
交通管理工					
交通誘導警備員		式		1	
交通誘導警備員 B					
建設機械運搬費		式		1	
建設機械運搬 [車載]					

数 量 総 括 表

工 事 名				新富島橋補修工事				事業区分	道路維持修繕	当初
								工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目				算 式				数 量	単位	摘 要
本工事費										
橋梁保全工事										
舗装工										
路面切削工										
路面切削										
		路面切削	全面切削6cm超え12cm以下	324.1	=	324.1	324	m2		
殻運搬										
		殻運搬(路面切削)	DID区間無し L=10.5km以下	25.9	=	25.9	25	m3		
殻処分										
		処分費	アスファルト殻 投棄量25m3	1.0	=	1.0	1	式		
橋面防水工										
橋面防水										
		塗膜系防水；(補修)		317.1	=	317.1	317	m2		
		排水用導水管	φ18mm 溶融亜鉛めっき鋼製 フルドレージ同等品以上	144.3	=	144.3	144	m		

数量総括表

工 事 名				新富島橋補修工事				事業区分	道路維持修繕	当初
								工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目				算 式				数 量	単位	摘 要
			成型目地材	幅35mm×厚さ5mm セシールSS7-7° 同等品以上	104.0	=	104.0	104	m	
			舗装打換え工							
			舗装版切断							
			舗装版切断(アスファルト舗装版)	15cm以下	28.7	=	28.7	28	m	
			舗装版破碎(小規模)							
			舗装版破碎積込(小規模土工)		41.3	=	41.3	41	m2	
			殻運搬							
			殻運搬	舗装版破碎 D1D区間有り, L=4.5km以下	2.07	=	2.1	2	m3	
			運搬費	小型車(2tクラス) 運搬距離13.0km	0.14 / 2.0 t	=	0.07 1.0 =	1.0	1	台
			処分							
			処分費	アスファルト殻 投棄量2m3	1.0	=	1.0	1	式	
			処分費	汚泥(濁水処分費) 投棄量 W=0.14 t	1.0	=	1.0	1	式	
			上層路盤							
			不陸整正	補足材料->有り (29mm以上34mm未満) 粒調碎石M-25, M-30, M-40	37.0	=	37.0	37	m2	

数 量 総 括 表

工 事 名					新富島橋補修工事			事業区分	道路維持修繕	当初
								工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目					算 式			数 量	単位	摘 要
			基層							
			基層(車道・路肩部)	t=40mm 密粒度アスコン[下水スラグ 入再生材] (13)	317.1	=	317.1	317	m2	
			表層							
			表層(車道・路肩部)	t=40mm 密粒度アスコン[下水スラグ 入再生材] (13)	317.1	=	317.1	317	m2	
			表層(車道・路肩部)	t=50mm 密粒度アスコン[下水スラグ 入再生材] (13)	37.0	=	37.0	37	m2	
			区画線工							
			区画線工							
			熔融式区画線							
			区画線設置[熔融式]	実線 15cm t=1.5mm	106.95	=	106.95	100	m	
			橋梁付属物工							
			伸縮継手工							
			鋼・コン製伸縮装置補修							
			橋梁用伸縮継手装置補修工	普通型 2車線相当 ブロードポイントCDx-20型 同等品以上	30.03	=	30.0	30.0	m	
			地覆部シール工	シリコン系 シール材(シリコン系) ・バックアップ材(ウレタン)含む	4.4	=	4.4	4	m	

数量総括表

工事名		新富島橋補修工事					事業区分	道路維持修繕	当初
							工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目		算 式					数 量	単位	摘 要
	殻運搬								
	運搬費	小型車(2tクラス) 運搬距離19.0km	(m3) 比重(t/m3) 0.924 × 0.35 / 2.0 t = 0.16	1.0	= 1.0	1	台	廃プラスチック (樹脂等除外)	
	殻運搬	コンクリート殻(無筋) D1D区間->無し, L=10.9km以下	伸縮継手工 断面修復工 0.220 + 0.004		= 0.224	0.2	m3		
	殻処分								
	処分費	廃プラスチック 投棄量 W=0.3 t	1.0		= 1.0	1	式		
	処分費	コンクリート殻(無筋) 投棄量0.2m3	1.0		= 1.0	1	式		
	橋梁用高欄工								
	橋梁用高欄								
	橋梁用高欄	組立式 C種, H=1000mm, 3本レール+2本補助レール FMGn-C-Fp3100-Y2Q同等品以上	109.7		= 109.7	109	m	材料費には設置に必要な加工材料費含む	
	コンクリート削孔(電動ハンマドリル)	30mm以上200mm未満	126.0		= 126.0	126	孔		
	コンクリート削孔(電動ハンマドリル)	200mm以上400mm以下	126.0		= 126.0	126	孔		
	橋梁補修工								
	断面修復工								
	左官工法								

数 量 総 括 表

工 事 名				新富島橋補修工事				事業区分	道路維持修繕	当初
								工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目				算 式				数 量	単位	摘 要
			断面修復工（左官工法）							
				1.0	=	1.0	1	構造物		
			構造物撤去工							
			構造物取壊し工							
			ｺﾝｸﾘｰﾄ構造物取壊し							
			構造物とりこわし工 [機械施工]	鉄筋構造物						
				5.21	=	5.2	5	m3		
			運搬処理工							
			殻運搬							
			殻運搬	ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(鉄筋) D1D区間->無し, L=10.9km以下						
				5.21	=	5.2	5	m3		
			殻処分							
			処分費	ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(鉄筋) 投棄量5m3						
				1.0	=	1.0	1	式		
			仮設工							
			交通管理工							
			交通誘導警備員							
			交通誘導警備員B							
				62.0	=	62.0	62	人日		

数 量 総 括 表

工 事 名		新富島橋補修工事				事業区分	道路維持修繕	当初
						工事区分	橋梁保全	
工 種 ・ 種 別 ・ 細 目		算 式				数 量	単位	摘 要
運搬費								
建設機械運搬費								
		建設機械運搬 [車載]		1.0 = 1.0		1	式	

数量集計表

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
断面修復工	カッター目地工		m	1.760	
	コンクリートはつり工	t=70mm	m2	0.058	
	コンクリート殻処分工		m3	0.004	0.01t
	鉄筋防錆工	エポキシ系樹脂	m2	0.058	
	下地処理工		m2	0.058	
	断面修復工	ポリマーセメントモルタル	m3	0.004	

工種		名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
橋面 撤去工	橋梁部	廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	25.9	t=80mm
		路面切削工	アスファルト舗装	m2	324.1	t=80mm
	土工部	廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	2.07	t=50mm
		舗装版破碎工	アスファルト舗装	m2	41.3	t=50mm
		舗装版切断工	アスファルト舗装	m	28.7	t=50mm

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
橋面防水工	防水層設置	塗膜系防水層	m2	317.1	
	導水パイプ設置	フルドレーン同等品以上：φ18mm	m	144.3	
	成型目地材	セロシールSSテープ同等品以上：幅35mm	m	104.0	
	端部補強材	シルバーメッシュ同等品以上：幅150mm	m	146.1	

工種		名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
舗装工	橋梁部	舗装復旧工	アスファルト舗装	m2	317.1	表層t=40mm,基層t=40mm
	土工部	舗装復旧すり付け工	アスファルト舗装	m2	37.0	表層t=50mm

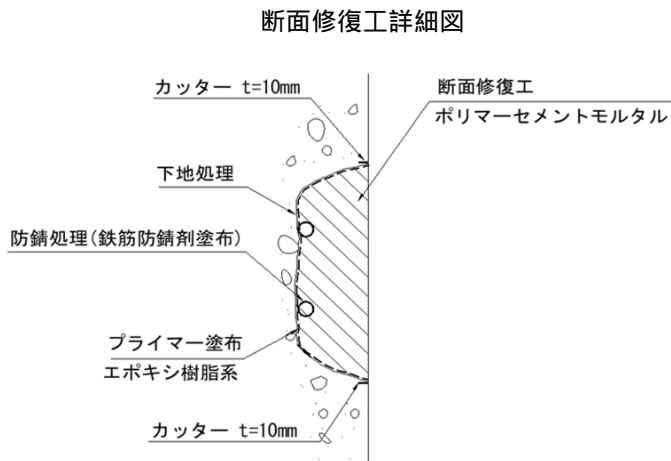
工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
区画線工	区画線工	W=150(実線,白)	m	106.950	

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
伸縮装置 取替工	伸縮装置本体	プロフジョイントCDx型 - 20用同等品以上	m	30.030	車道用
	シール材	シリコン系	ℓ	1.59	地覆部・拡幅部(A1,A2)
	バックアップ材	ウレタンスポンジ	m	4.402	
	後打コンクリート	超速硬コンクリート	m3	1.892	
	通し筋	SD345	本	4	D16x9130
	通し筋	SD345	本	8	D16x6010
	通し筋	SD345	本	4	D16x8880
	コンクリートアンカー	D16 (SD345)	本	476	
	接着剤	CDx型(20用・車道用)	セット	4	
	樹脂ミルク処分工	廃プラスチック	m3	0.924	0.323t
	コンクリート殻処分工	無筋コンクリート	m3	0.220	0.517t

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
防護柵撤去工	防護柵撤去工	撤去延長	m	109.9	
	コンクリート取壊し工	鉄筋コンクリート	m3	5.21	
			t	13.0	

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
防護柵設置工	防護柵設置工		m	109.7	
	アンカー設置	φ 24 × 205	箇所	126	
		φ 24 × 160	箇所	126	
	本体設置	通り調整，不陸調整	m	109.7	
	アンカー腐食防止策	アンカー孔，キャップ内シリコン充填	m	109.7	

1-1. 断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)



1. 数量集計表

1) 上部工

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
断面修復工	カッター目地工		m	1.760	
	コンクリートはつり工	t=70mm	m2	0.058	
	コンクリート殻処分工		m3	0.004	0.01t
	鉄筋防錆工	エポキシ系樹脂	m2	0.058	
	下地処理工		m2	0.058	
	断面修復工	ポリマーセメントモルタル	m3	0.004	

2. 数量内訳

(1)上部工

1) 断面修復工面積

- ・ 上部工
- 橋面(2径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲		箇所	面積	備 考
		縦(mm)	横(mm)		(m2)	
1	剥離	100	× 150	1	0.015	地覆01
合計					0.015	

橋面(3径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲		箇所	面積	備 考
		縦(mm)	横(mm)		(m2)	
1	鉄筋露出	100	× 180	1	0.018	地覆01
2	欠損	250	× 100	1	0.025	地覆02
合計					0.043	

・ 上部工合計

$$\Sigma A = \begin{array}{c} \text{橋面(2径間)} \\ 0.015 \end{array} + \begin{array}{c} \text{橋面(3径間)} \\ 0.043 \end{array} = 0.058 \text{ m}^2$$

2) カッター目地工

・ 上部工

橋面(2径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲			箇所	目地長	備考
		縦(mm)	×	横(mm)		(m)	
1	剥離	100	+	150	1	0.500	地覆01
合計						0.500	

橋面(3径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲			箇所	目地長	備考
		縦(mm)	×	横(mm)		(m)	
1	鉄筋露出	100	+	180	1	0.560	地覆01
2	欠損	250	+	100	1	0.700	地覆02
合計						1.260	

・ 上部工合計

$$\Sigma L = \begin{array}{c} \text{橋面(2径間)} \\ 0.500 \end{array} + \begin{array}{c} \text{橋面(3径間)} \\ 1.260 \end{array} = 1.760 \text{ m}$$

3) コンクリートはつり工

・ 上部工

(t= 70 mm) はつり厚t=70mmとして算出する。

橋面(2径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲			箇所	はつり面積	はつり厚	はつり量	備考
		縦(m)	×	横(m)		(m ²)	(m)	(m ³)	
1	剥離	0.100	×	0.150	1	0.015	0.070	0.0011	地覆01
合計						0.015		0.0011	

橋面(3径間)

番号	損傷の種類	損傷範囲			箇所	はつり面積	はつり厚	はつり量	備考
		縦(m)	×	横(m)		(m ²)	(m)	(m ³)	
1	鉄筋露出	0.100	×	0.180	1	0.018	0.070	0.0013	地覆01
2	欠損	0.250	×	0.100	1	0.025	0.070	0.0018	地覆02
合計						0.043		0.0031	

・ 上部工合計

$$\Sigma V = \begin{array}{c} \text{橋面(2径間)} \\ 0.001 \end{array} + \begin{array}{c} \text{橋面(3径間)} \\ 0.003 \end{array} = 0.004 \text{ m}^3$$

$$\Sigma A = \begin{array}{c} \text{橋面(2径間)} \\ 0.015 \end{array} + \begin{array}{c} \text{橋面(3径間)} \\ 0.043 \end{array} = 0.058 \text{ m}^2$$

4) コンクリート殻処分工

コンクリートはつり工より

上部工合計

$$V = 0.004 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.010 \text{ t}$$

5) 鉄筋防錆工

断面修復工面積より

上部工合計 (エポキシ系樹脂)

$$A = 0.058 = 0.058 \text{ m}^2$$

6) 下地処理工

断面修復工面積より

上部工合計

$$A = 0.058 = 0.058 \text{ m}^2$$

1-2. 橋面撤去工

1. 数量集計表

(橋梁部)橋面撤去工

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
撤去工	廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	25.9	t=80mm
	路面切削工	アスファルト舗装	m2	324.1	t=80mm

(土工部)橋面撤去工

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
撤去工	廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	2.07	t=50mm
	舗装版破碎工	アスファルト舗装	m2	41.3	t=50mm
	舗装版切断工	アスファルト舗装	m	28.7	t=50mm

2. 数量内訳

1) アスファルト舗装 廃材運搬・処理

(橋梁部)

舗装撤去 アスファルト舗装 t= 80 mm

$$V1 = (6.100 \times 17.305 + 3.90) \times 0.080 = 8.76 \text{ m3}$$

(CAD計測値)

$$V2 = 6.100 \times 17.340 \times 0.080 = 8.46 \text{ m3}$$
$$V3 = (6.100 \times 17.305 + 3.33) \times 0.080 = 8.71 \text{ m3}$$

(CAD計測値)

(橋梁部) Σ V = 25.93 m3

(土工部)

舗装撤去 アスファルト舗装 t= 50 mm

$$V1 = 10.350 \times 2.000 \times 0.050 = 1.04 \text{ m3}$$
$$V2 = 10.300 \times 2.000 \times 0.050 = 1.03 \text{ m3}$$

(土工部) Σ V = 2.07 m3

2) 路面切削工

(橋梁部)

舗装切削	アスファルト舗装t=		80	mm		
A1	=	6.100	×	17.305	+	3.90
						(CAD計測値)
						= 109.46 m2
A2	=	6.100	×	17.340		= 105.77 m2
A3	=	6.100	×	17.305	+	3.33
						(CAD計測値)
						= 108.89 m2
(橋梁部) Σ A						= 324.12 m2

3) 舗装版破碎工

(土工部)

舗装破碎	アスファルト舗装t=		50	mm		
A1	=	10.350	×	2.000		= 20.70 m2
A2	=	10.300	×	2.000		= 20.60 m2
(土工部) Σ A						= 41.30 m2

4) 舗装版切断工

(土工部)

切断延長	アスファルト舗装t=		50	mm		
L1	=	2.000	+	10.350	+	2.000
						= 14.35 m
L2	=	2.000	+	10.300	+	2.000
						= 14.30 m
(土工部) Σ L						= 28.65 m

1. 数量集計表

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
橋面防水工	防水層設置	塗膜系防水層	m2	317.1	
	導水パイプ設置	フルドレーン同等品以上：φ18mm	m	144.3	
	成型目地材	セシールSSテープ同等品以上：幅35mm	m	104.0	
	端部補強材	シルバーメッシュ同等品以上：幅150mm	m	146.1	

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
舗装復旧工	舗装復旧工	アスファルト舗装	m2	317.1	表層t=40mm 基層t=40mm

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
舗装復旧すり付け工	舗装復旧すり付け工	アスファルト舗装	m2	37.0	表層t=50mm

工種	名称	仕様・寸法	単位	数量	備考
区画線工	区画線工	W=150(実線,白)	m	106.950	

$$\Sigma L = 144.30 \text{ m}$$

3) 成型目地材 (セシルSSテープ 同等品以上：幅35mm)

$$L1 = 12.770 + 5.345 + 16.990 = 35.11 \text{ m}$$

$$L2 = 16.970 + 16.970 = 33.94 \text{ m}$$

$$L3 = 12.950 + 5.070 + 16.970 = 34.99 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 104.04 \text{ m}$$

4) 端部補強材 (シルバーメッシュ 同等品以上：幅150mm)

$$L1 = 12.770 + 5.345 + 8.923 + 16.990 + 6.100 = 50.13 \text{ m}$$

$$L2 = 16.970 + 6.100 + 16.970 + 6.100 = 46.14 \text{ m}$$

$$L3 = 12.950 + 5.070 + 8.711 + 16.970 + 6.100 = 49.80 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 146.07 \text{ m}$$

(2) 舗装復旧工

1) アスファルト舗装

(橋梁部) アスファルト舗装 t= 80 mm (表層40mm+基層40mm)

$$A1 = 6.100 \times 16.990 + 3.48 = 107.12 \text{ m}^2$$

(CAD計測値)

$$A2 = 6.100 \times 16.970 = 103.52 \text{ m}^2$$

$$A3 = 6.100 \times 16.970 + 2.94 = 106.46 \text{ m}^2$$

(CAD計測値)

$$(橋梁部) \Sigma A = 317.10 \text{ m}^2$$

(土工部)

アスファルト舗装 t= 50 mm (表層50mm)

$$A1 = 10.350 \times 1.790 = 18.53 \text{ m}^2$$

$$A2 = 10.300 \times 1.790 = 18.44 \text{ m}^2$$

$$(土工部) \Sigma A = 36.97 \text{ m}^2$$

(3) 区画線工

1) 区画線工

W=150(実線, 白)

$$L = 1.920 + 16.990 + 16.970 + 16.970 + 1.770 + 17.730 + 16.970 + 17.630 = 106.950 \text{ m}$$

1-4. 伸縮装置取替工

1. 数量集計表

名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量					摘 要
			A1	P1	P2	A2	合計	
プロフジョイント	C D × 型 - 20用	m	9.130	6.010	6.010	8.880	30.030	車道用
シール材	シリコン系	ℓ	0.24	0.53	0.53	0.29	1.59	地覆部・拡幅部(A1,A2)
バックアップ材	ウレタンスポンジ	m	1.220	0.876	0.876	1.430	4.402	
後打コンクリート	超速硬コンクリート	m ³	0.575	0.379	0.379	0.559	1.892	
通し筋	SD345	本	4				4	D16x9130
通し筋	SD345	本		4	4		8	D16x6010
通し筋	SD345	本				4	4	D16x8880
コンクリートアンカー	D16 (SD345)	本	144	96	96	140	476	
接着剤	C D × 型(20用・車道用)	セット	1	1	1	1	4	
樹脂珪砂処分工（廃プラスチック）		m ³	0.288	0.178	0.178	0.280	0.924	0.323t
コンクリート殻処分工（無筋コンクリート）		m ³	0.089	0.022	0.022	0.087	0.220	0.517t

2. 数量内訳

1) 伸縮装置 (SS400 + 合成ゴム + SD345 + 弾性シール材)

A1	プロフジョイント C D × 型 - 20用 (車道用)	L=	9.130	m
P1	プロフジョイント C D × 型 - 20用 (車道用)	L=	6.010	m
P2	プロフジョイント C D × 型 - 20用 (車道用)	L=	6.010	m
A2	プロフジョイント C D × 型 - 20用 (車道用)	L=	8.880	m

2) シール材 (シリコン系)

A1	10 mm × 20 mm	L=	1220	m
	V= 0.010 × 0.020 × 1.220 × 1000	=	0.24	ℓ
P1	30 mm × 20 mm	L=	876	m
	V= 0.030 × 0.020 × 0.876 × 1000	=	0.53	ℓ
P2	30 mm × 20 mm	L=	876	m
	V= 0.030 × 0.020 × 0.876 × 1000	=	0.53	ℓ
A2	10 mm × 20 mm	L=	1430	m
	V= 0.010 × 0.020 × 1.430 × 1000	=	0.29	ℓ

3) バックアップ材 (ウレタンスポンジ)

A1	L=	1.220	L=	1.220	m
P1	L=	0.876	L=	0.876	m
P2	L=	0.876	L=	0.876	m
A2	L=	1.430	L=	1.430	m

4) 後打コンクリート (超速硬コンクリート)

$$\begin{aligned} A1 \quad V &= 9.130 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &+ 9.130 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &= 0.575 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P1 \quad V &= 6.010 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &+ 6.010 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &= 0.379 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P2 \quad V &= 6.010 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &+ 6.010 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &= 0.379 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} A2 \quad V &= 8.880 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &+ 8.880 \times 0.350 \times (0.090 + 0.090) / 2 \\ &= 0.559 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

5) 通し筋 (SD345)

A1	D16 × 9130	n=	4	本
P1	D16 × 6010	n=	4	本
P2	D16 × 6010	n=	4	本
A2	D16 × 8880	n=	4	本

6) コンクリートアンカー (SD345)

A1	D16	n=	144	本
P1	D16	n=	96	本
P2	D16	n=	96	本
A2	D16	n=	140	本

7) 接合部用接着剤

A1	C D × 型 (20用・車道用) 接着剤	n=	1	セット
P1	C D × 型 (20用・車道用) 接着剤	n=	1	セット
P2	C D × 型 (20用・車道用) 接着剤	n=	1	セット
A2	C D × 型 (20用・車道用) 接着剤	n=	1	セット

8) 樹脂モルタル処分工 (廃プラスチック)

$$\begin{aligned} A1 \quad V &= 0.140 \times 0.090 \times 9.130 \\ &+ 0.210 \times 0.090 \times 9.130 \\ &= 0.288 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P1 \quad V &= 0.175 \times 0.090 \times 6.010 \\ &+ 0.155 \times 0.090 \times 6.010 \\ &= 0.178 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P2 \quad V &= 0.175 \times 0.090 \times 6.010 \\ &+ 0.155 \times 0.090 \times 6.010 \\ &= 0.178 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} A2 \quad V &= 0.210 \times 0.090 \times 8.880 \\ &+ 0.140 \times 0.090 \times 8.880 \\ &= 0.280 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \Sigma V &= 0.288 + 0.178 + 0.178 + 0.280 = 0.924 \quad m^3 \\ \Sigma W &= 0.924 \times 0.35 \quad t/m^3 = 0.323 \quad t \end{aligned}$$

9) コンクリート殻処分工 (無筋コンクリート)

$$\begin{aligned} A1 \quad V &= (0.350 - 0.140) \times (0.090 - 0.050) \times 9.130 \\ &+ (0.350 - 0.210) \times (0.090 - 0.080) \times 9.130 \\ &= 0.089 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P1 \quad V &= (0.350 - 0.175) \times (0.090 - 0.080) \times 6.010 \\ &+ (0.350 - 0.155) \times (0.090 - 0.080) \times 6.010 \\ &= 0.022 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P2 \quad V &= (0.350 - 0.175) \times (0.090 - 0.080) \times 6.010 \\ &+ (0.350 - 0.155) \times (0.090 - 0.080) \times 6.010 \\ &= 0.022 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} A2 \quad V &= (0.350 - 0.210) \times (0.090 - 0.080) \times 8.880 \\ &+ (0.350 - 0.140) \times (0.090 - 0.050) \times 8.880 \\ &= 0.087 \quad m^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \Sigma V &= 0.089 + 0.022 + 0.022 + 0.087 = 0.220 \quad m^3 \\ \Sigma W &= 0.220 \times 2.35 \quad t/m^3 = 0.517 \quad t \end{aligned}$$

1-5. 防護柵撤去工

1. 数量集計表

名 称	仕 様・寸 法	単 位	数 量	備 考
防護柵撤去工	撤去延長	m	109.9	
コンクリート取壊し工	鉄筋コンクリート	m ³	5.21	
		t	13.0	

2. 数量内訳

1) 防護柵撤去工 (撤去延長)

$$\begin{array}{llllll}
 \text{L側} & \text{L1=} & 19.557 & + & 17.670 & + & 19.648 & = & 56.88 \text{ m} \\
 & & & & & & & & \\
 \text{R側} & \text{L2=} & 17.670 & + & 17.670 & + & 17.670 & = & 53.01 \text{ m} \\
 & & & & & & & \Sigma \text{ L=} & 109.89 \text{ m}
 \end{array}$$

2) コンクリート取壊し工 (鉄筋コンクリート)

$$\begin{array}{llllll}
 \text{笠木} & \text{V1=} & 0.150 & \times & 0.200 & \times & 109.89 & = & 3.30 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 \text{支柱} & \text{V2=} & (0.150 & + & 0.200) & \times & 1/2 & \times & 0.623 \\
 & & \times & 0.150 & \times & (32 & + & 30) & = & 1.01 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 \text{横棧L側} & \text{V3=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (19.082 & - & 0.150 & \times & 10) & \times & 2 & = & 0.14 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 & \text{V4=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (17.155 & - & 0.150 & \times & 9) & \times & 2 & = & 0.13 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 & \text{V5=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (19.095 & - & 0.150 & \times & 10) & \times & 2 & = & 0.14 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 \text{横棧R側} & \text{V6=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (17.165 & - & 0.150 & \times & 9) & \times & 2 & = & 0.13 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 & \text{V7=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (17.173 & - & 0.150 & \times & 9) & \times & 2 & = & 0.13 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 & \text{V8=} & 0.050 & \times & 0.080 & \times & & & \\
 & & (14.967 & - & 0.150 & \times & 8) & \times & 2 & = & 0.11 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & & \\
 \text{パネル} & \text{V9=} & 0.150 & \times & 0.450 & \times & 1.753 & = & 0.12 \text{ m}^3 \\
 & & & & & & & \Sigma \text{ t=} & 5.21 \text{ m}^3
 \end{array}$$

3) コンクリート撤去重量 (2.5 t/m³)

$$\begin{array}{llll}
 \text{W=} & 5.21 & \times & 2.5 & = & 13.0 \text{ t}
 \end{array}$$

1-6. 防護柵設置工

1. 数量集計表

工種	名 称	仕 様・寸 法	単位	数 量	摘 要
防護柵 設置工	防護柵設置工		m	109.7	
	アンカー設置	φ 24 × 205	箇所	126	
		φ 24 × 160	箇所	126	
	本体設置	通り調整，不陸調整	m	109.7	
	アンカー腐食防止策	アンカー孔，キャップ内シリコン充填	m	109.7	

2. 数量内訳

- 1) 防護柵設置工 (設置延長)

L= 56.605 + 53.078 = 109.683 m
- 2) アンカー設置

1) φ 24 × 205

N= 63 × 2 = 126 箇所

2) φ 24 × 160

N= 63 × 2 = 126 箇所
- 3) 本体設置 (通り調整，不陸調整)

L= 56.605 + 53.078 = 109.683 m
- 4) アンカー腐食防止策 (アンカー孔，キャップ内シリコン充填)

L= 56.605 + 53.078 = 109.683 m

特記仕様書

第1章 総 則

第1条 適 用

- 1 本特記仕様書は、たつの市が発注する「新富島橋補修工事」に適用する。
受注者は、以下の図書を遵守し入念に施工しなければならない。
 - ・設計書、図面、たつの市契約規則、特記仕様書
 - ・土木請負工事必携、土木工事共通仕様書、土木工事施工管理基準、小型構造物標準図集〔財〕兵庫県建設技術センター発行
 - ・道路橋示方書・同解説 ～（日本道路協会 平成29年11月）、その他鋼道路橋に関する図書及び資料。
- 2 本仕様書の構成において条文番号が飛び番号となっているが、本工事に関する特記事項は記載事項のみが適用される。
- 3 見積参考図書は、工事施工における発注者の標準的な考え方を示したものであり、その記載内容については、契約条件として取り扱われるものではない。
- 4 ポリマーセメントモルタル(断面修復材)については、土木工事積算単価(兵庫県)を基に単価を算出している。
- 5 本工事は、諸手続き完了後、繰越予定である。

第1条の2 設計図書と現地の整合性

本工事の施工に当たっては、事前に設計書と現地（上部工・下部工・既設道路）の照査を行うものとし、照査結果を監督員に対し書面により提出するものとする。

第1条の3 検査等に合格した場合における契約不適合責任の取扱い

検査（中間検査、完成検査及び既済部分検査）段階確認、落橋防止装置等を対象とした抜き打ち非破壊試験検査に合格しても、後に施工不良等が判明した場合に受注者の契約不適合責任が免責されるものではない。

第1条の4 法定外の労災保険の付保について

本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならず、契約書第57条(火災保険等)に基づき、受注者は保険契約を締結したのち、その証券等を発注者に提示すること。

第2章 施工条件

第2条 工程関係

- 1 本工事契約後、直ちに本工事監督員と工程及び現場調整のため調整会議を行う。
その後、施工計画、実施工程表を作成し監督員の承諾を得ること。
- 2 工期
施工計画の策定にあたっては工期の短縮化と効率化について検討すること。
- 3 施工時間
本工事は、昼間施工とするが、関係機関との調整の結果、作業時間帯に変更が生じる場合は、速やかに監督員と協議すること。
- 4 地元調整
地元自治会等と充分打ち合わせを行い、苦情等がないようスムーズな施工に努めること。通行規制が必要となる場合は、工程表等により事前に協議するものとする。また、資材置き場、資材運搬経路等についても、トラブルのないよう十分協議すること。

第2条の2 用地関係

- 1 現場内において境界杭等が確認された場合は、監督員及び土地所有者と立会確認し、控杭等に

より工事完了後においても復元できるよう処理すること。

- 2 別途境界点復元を指示するが、復元に当たっては測量士により作業を行うこと。
詳細な点については別途協議を行う。(杭又はプレートについては支給する。)
- 3 民地を掘削しなければならない時には、官民境界を監督員及び土地所有者と立会確認し、控え杭等を設置し明確に保有すること。

第2条の3 排出ガス対策型建設機械

本工事において建設機械を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。

なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することと同等とみなす。

ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

上記において、「これにより難しい場合」とは、受注者の都合で調達できない場合を含むものとする。なお、使用する建設機械が排出ガス対策型建設機械であることを確認できる写真を撮影し、完成書類として提出するものとする。

第2条の4 工事支障物件等

	支障物件名	管 理 者				
地 上 及 添 物	電柱	関西電力	N T T	自治会		
	電線管	関西電力	N T T			
	上下水道管	西播磨水道 企業団	たつの市 下水道施設課			

第2条の5 その他

1 汚濁水への対応

本工事に起因して汚濁水が流出する恐れがある場合は、受注者の責において着手前に地元自治会及び水利管理者、地元漁業協同組合と調整を図ること。

工事中は、河川の水質に対し、濁水管理を徹底し、最善の汚濁防止対策に努めること。

2 写真管理

品質管理及び出来型管理写真撮影時には、現場代理人または主任技術者が検認している状況を監督員が確認できるように撮影すること。

3 定期通行への対応

通学路、コミュニティバスを含むバス路線及びごみ収集ルートになっている場合は、各関係機関と打合せを行う等、その通行に対して配慮を行うこと。

第3章 再生資源

第4条 特定建設資材の分別解体等・再資源化等

- 1 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律((平成12年法律第104号)。以下「建設リサイクル法」という。)に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書の「解体工事に要する費用等に関する書面」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者は積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものである。

分別解体の方法

工程 ごとの 作業 内容 及び 解体 方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法（ ）
	仮設	仮設工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	土工	土工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	基礎	基礎工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	本体構造	本体構造の工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	本体付属品	本体付属品の工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	その他 ()	その他の工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用

「分別解体等の方法」の欄については、該当がない場合は記載の必要はない。

再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材 廃棄物の種類	施設の名称	運搬距離	所在地	受入等諸条件	その他
アスファルト塊 (切削)	山陽建設工業(株)	9.7 km	揖保町揖保中	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。	監督員の指示による。
アスファルト塊 (掘削)	前田道路(株) 姫路合材工場	4.2 km	姫路市 網干区興浜		
コンクリート塊 (有筋)	(株)DAIDO	10.1 km	龍野町大道		
コンクリート塊 (無筋)	(株)DAIDO	10.1 km	龍野町大道		

上表については、積算条件を明示しているものであり受入施設を指定するものではなく、受注者は、県登録施設から搬出先施設を選定し、共通仕様書に基づき施工計画書に含め、監督員に提出しなければならない。なお、受注者の選定した施設が、積算条件と異なる場合においても設計変更は行わない。

ただし、上記の施設が工事発注後に県登録施設からの登録抹消等により受け入れ困難となった場合は、設計変更を行う。

- 2 受注者は、契約締結までに建設リサイクル法第12条に基づき、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を所定の書面に記載し、監督員に報告することとする。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ・再資源化等に要した費用

併せて、再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）を提出するものとする。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の

公衆が見やすい場所に掲げなければならない。掲示様式は兵庫県HPに掲載の様式もしくは、建設副産物情報交換システムで出力される様式を使用すること。

3 その他

工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。

また、受注者は、再生資源利用計画書及び再資源利用促進計画書を作成し監督員の承諾を得た後、責任をもって適正に処分するものとする。

処分量については、設計数量をマニフェスト数量が上回る場合は、設計数量とし、下回る場合はマニフェスト数量とする。

第5条 舗装の切断作業に伴い発生する濁水等の適正処理

(1) 濁水等の適正処理

舗装の切断作業に伴い発生する濁水等は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、下表の分類により、適正に処理すること。

区分 \ 工法	濁水が生じる工法（湿式）	濁水が生じない工法（空冷式 等）
排出形態	濁水 1	粉体
産業廃棄物の分類	「汚泥」、含まれる成分によっては、 「汚泥＋廃アルカリ混合物」 （ 1 乾燥させた場合も同様）	「がれき類」 2 （ 2 処分先の許可条件による分類基準）

(2) 濁水が生じる工法での処理方法等

濁水が生じる工法（湿式）を採用する場合は、産業廃棄物の「汚泥」または「汚泥＋廃アルカリ混合物」として適正に処理すること。収集・運搬・処理方法は下記 ～ のとおりとする。

収集方法

以下の収集方法等により、直接現場外に排水することなく、適正に収集すること。なお、これらの方法は指定ではなく、各現場にて適正に収集することが可能な方法で収集すること。

<収集方法（例）>

- ・濁水を収集する機能を有するカッター機械（バキューム式）による収集
- ・工業用掃除機による収集
- ・濁水をスポンジ等で吸着させバケツ等に移し替えて収集 等

運搬方法

収集した濁水は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の運搬の基準に従い、適正に処理すること。

処理方法

収集した濁水は、産業廃棄物の「汚泥」として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理すること。

なお、収集した濁水に含まれる成分によっては、産業廃棄物の「廃アルカリ」との混合物に分類される可能性があるため、処理の際には十分注意すること。また、pH12.5 以上の場合は「特別管理産業廃棄物」としての処理が必要となるので十分注意すること。

「廃アルカリ」や「特別管理産業廃棄物」としての処理が必要となった場合には、その処理方法を監督員と協議の上、適正に処理するものとし、その際に必要となる経費については、設計変更の対象とする。

(3) 濁水が生じない工法での処理方法等

濁水が生じない工法（空冷式等）を採用する場合は、収集にあたり吸引装置を併用するなど、粉塵の飛散防止対策を行うとともに、収集した粉塵については、産業廃棄物の「がれき類」として適正に処理すること。がれき類の処分先は、県登録施設または、がれき類における産業廃棄

物処分業許可書を所有する施設に行うものとする。

(4) 当初設計における濁水処理費

当初設計においては、濁水処理費を以下のとおり計上している。 濁水量は実施数量（マニフェストで確認）に応じて設計変更を行う。

濁水量 0.14 t

運搬費 普通トラック（2 t）運搬

処理施設

産業廃棄物の種類	施設の名称	運搬距離	所在地	受入等諸条件	その他
「汚泥(泥水)」	(株)キョウドウ	13.0 km	兵庫県姫路市飾磨区中島2071	土木部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に記載の当該施設の受入条件を遵守すること	監督員の指示による

上表は、積算参考条件を明示しているものであり、受入施設を指定するものではない。受注者は、県登録施設から搬出先施設を選定し、共通仕様書に基づき、施工計画書に記載して監督員に提出しなければならない。なお、受注者が選定した施設が、積算参考条件と異なる場合においても設計変更は行わない。

ただし、上表の施設が工事発注後に県登録施設から登録抹消されるなど、受入困難となった場合は、設計変更を行う。

この他、工事発注後に明らかになった事情により、当初想定した積算参考条件により難しい場合は、監督員と協議の上、必要に応じて設計変更を行う。

第4章 工事中の安全確保

第6条 施工時の公衆への安全対策について

- 1 剥離、ケレン作業時においては、一般車両、第三者への飛散防止対策を行うこと。
- 2 施工時は、橋梁下へ撤去物及び資機材等が落下することが無いように対策を講じるとともに、足場下にて第三者へ危害がおよんだり、火災が発生したりすることが無いよう合わせて対策を行うこと。
- 3 その他、公衆災害が発生しないよう、十分に対策を行うこと。

上記1～3の対策について、施工計画書に詳細を明記すること。

第5章 使用材料

第7条 建設資材、物品等の調達について

本工事に使用する建設資材については、県内製品の優先使用に努めることとする。

特に主要資材（別紙）の調達にあたっては、原則として県内製品を使用することとする。

ただし、主要資材について県内製品の調達が困難な場合は、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達を図ることとし、それでもなお、やむを得ない理由があり、これにより難しい場合は、使用する資材について監督員に「県内製品未使用理由書」を提出し、監督員の承諾を得ることとする。

第13条 普通ポルトランドセメントの品質

土木工事共通仕様書 第1編 第2章材料 第8節セメント及び混和材料 2-8-2 セメント「表2-22 普通ポルトランドセメントの品質」中の塩化物イオンに関する規格は、0.035%以下とする。

第14条 下水道汚泥溶融スラグを用いたアスファルト混合物

- 1 本工事における再生密粒度アスファルト混合物（TOP13）は下水道汚泥溶融スラグを用いたアスファルト混合物（以下「下水汚泥スラグアスファルト混合物」という。）の使用を原則とする。
ただし、材料の調達が困難な場合は通常の再生密粒度アスファルト混合物の使用を妨げない。
なお、この場合、事前に発注者の了解を得ることとする。
- 2 上記については設計変更の対象とはしない。
- 3 下水汚泥スラグアスファルト混合物における材料の試験成績表や品質証明書の提出、配合設計及び試験練り等については、土木工事共通仕様書によるものとする。
- 4 下水汚泥溶融スラグ及び下水汚泥スラグアスファルト混合物の品質は「下水汚泥溶融スラグの品質基準」「下水汚泥溶融スラグを用いたアスファルト混合物の品質基準」を満たすものとする。
- 5 下水汚泥スラグアスファルト混合物には揖保川浄化センター（兵庫西流域下水汚泥広域処理場）で製造された溶融スラグを使用するものとする。

第15条 アスファルト混合物

- 1 受注者は、アスファルト合材配合統一用紙を提出した加熱アスファルト混合物を使用する場合は、アスファルト混合物設計総括表、アスファルト混合物設計のバックデータ及び使用材料の試験成績表の写しを監督員に提出し、承諾を受けるものとする。
- 2 受注者は、アスファルト混合物事前審査委員会が認定した加熱アスファルト混合物を使用する場合は、事前審査制度認定書（認定書、混合物総括表）の写しを監督員に提出し、承諾を受けるものとする。
- 3 アスファルト合材配合統一用紙を提出した混合物又はアスファルト混合物事前審査制度認定混合物を使用する場合は、土木工事共通仕様書によらず、アスファルト混合物及びその材料に関する品質証明書、試験成績表の提出並びに配合設計、試験練りを省略することができる。
- 4 配合統一用紙又は事前審査制度認定書による場合の「品質管理基準」は、以下のとおりとする。

工種	種別	試験区分	試験項目	試験基準	
				配合統一用紙	事前審査制度認定書
アスファルト舗装	材料	必須	塑性変形輪数	混合所自主管理 1	混合所自主管理 1
			土木施工管理基準 「品質管理基準」の全項目	配合統一用紙提出	事前審査認定書提出
		その他	土木施工管理基準 「品質管理基準」の全項目		
	プラント	必須	配合試験	混合所自主管理 1	混合所自主管理 1
			混合物のアスファルト量抽出		
			混合物の粒度分析試験		
			温度測定（混合物）		
			基準密度の決定	配合統一用紙提出	事前審査認定書提出

- 1 監督員から指示があった場合は、試験結果を提出するものである。

第16条 超速硬コンクリートについて

伸縮継手工に使用するコンクリート(超速硬)の規格は次のとおりとする。なお、使用に当たっては、所定の強度が得られることを確認できる資料を事前に監督員に提出し、確認を受けなければならない。

工種	3H 圧縮強度
伸縮継手工	24N/mm ²

第17条 伸縮装置について

本工事に使用する伸縮装置については、事前に、現地にて延長・角度・遊間等を確認した上で、詳細図を提出し、監督員の承諾を得るものとする。

第6章 施工

第18条 工法検討

工法及び現場における構造物の変更等については書面で相互確認を行うものとする。

第19条 取合部の施工

受注者は、軽微な取り合わせ等、現場納めについては図示されていないものであっても施工するものとする。

第20条 断面修復工・ひび割れ補修工

事前に現地調査を行い、補修箇所の確認を行い、その結果について監督員に提出すること。
また、その対処方法について監督員と協議すること。

第21条 既設伸縮装置撤去について

既設伸縮装置撤去に伴い発生する廃プラスチック類(樹脂モルタル)の処分については下記の積算条件を設定している。

処分先：株式会社新宮クリーン(姫路市別所町佐土)

運搬距離：L=19.0km

第7章 交通安全

第22条 交通誘導警備員

工事の施工に当たっては、一般交通等に支障を及ぼさないよう作業時間中(休憩時間も含む)は、交通誘導警備員を配置し十分に注意して施工すること。

配置場所については監督員と協議すること。

なお、交通誘導警備員は延べ[62]人を見込んでいる。

但し、交通整理は施工計画にて必要員数と配備計画を計上し、現場状況と関係機関との調整により監督員と協議した上で承諾を受け、旬報及び伝票により検認し、実働日数により設計変更の対象とする。

第23条 交通誘導警備員の資格等

1 本工事に配置する交通誘導員は、原則として交通誘導警備検定合格者(1級または2級)を配置すること。

但し、交通誘導警備検定合格者を配置できない場合は、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置すること。

資 格	資 格 要 件
1・2級交通誘導警備検定合格者(A)	公安委員会が学科及び実技試験を行って、交通誘導警備に関して専門的な知識及び技能を有すると認めた者。
交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員(B)	・警備業法における警備員指導教育責任者資格者証の交付を受けている者。 ・警備業法における指定講習を修了した者。 ・警備業法施行規則における基本教育及び業務別教育(警備業法第二条第一項第二号の警備業務)を既に受けている者で、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験)が1年以上である者。

- 2 受注者は、交通誘導警備員として交通誘導警備検定合格者を配置した場合、交通誘導警備検定合格証（写し）を監督員に提出するものとする。

受注者は、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置した場合、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有すると確認できる次の資料の何れかを監督員に提出するものとする。

- ・警備員指導教育責任者証（写し）
- ・指定講習修了証明書（写し）
- ・警備業法施行規則 第二十六条第二項に定める基本教育、及び同条第2項、第3項に定める業務別教育(警備業法第二条第一項第二号の警備業務)を受講したことを証明する警備員名簿及び教育実施状況等の写し、及び交通誘導に関する警備業務に従事した期間（実務経験）が1年以上であることを証明する書類。

第8章 提出書類

第24条 提出書類

提出書類に関しては、別紙一覧とし、監督員と協議の上決定すること。

第9章 その他

第25条 工事实績データの作成・登録

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万以上の工事について、工事实績情報サービス（コリンズ）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事实績情報として「工事实績データ」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、訂正時は適宜登録しなければならない。

変更登録は、工期又は技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。

また、「工事实績データ」の登録後、登録機関発行の「登録内容確認書」を直ちに監督員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

たつの市工事関係提出書類一覧表

時期	番号	提出書類名	部数	様式	提出日等
着手前	1	工事着手届	1	様式 - 4	工事着手後すみやかに
	2	工事施工計画及び工事下請負人等(変更)通知書	1	様式 - 8	契約締結時及び内容の変更後すみやかに 下請負契約が130万円超の場合は誓約書徴取
	3	工程表(バーチャート式)	1	様式 - 5	契約締結後5日以内
	4	現場代理人及び主任技術者届	1	様式 - 6	契約締結後5日以内
	5	主任技術者経歴書	1	様式 - 7	契約締結後5日以内
	6	施工計画書(当初・変更)	2(1部返却)	様式 - 9	工事着手前まで、変更時はすみやかに
	7	交通整理員の資格証明書(講習会受講証も可)	1(写)		施工計画書に添付
	8	施工管理計画及び施工管理担当者	1		施工計画書に添付
	9	計画工程表(1000万以上ネットワーク未満はバーチャート) 数量・構成比・工程曲線を記入	1		施工計画書に添付
	10	コリンズの登録(当初・変更) 請負金額500万円以上	1(写)	必4-35	契約後10日以内 (登録後すみやかに登録内容確認書を提出)
	11	施工体制台帳・施工体系図(下請契約のある工事)	1	様式-33	工事着手前まで 下請負契約が130万円超の場合は誓約書徴取
	12	工事用材料使用確認・承諾願(当初・変更追加共)	2(1部返却)	様式9-2・10	使用前まで
	13	事前測量結果報告書	1		工事施工前まで
	14	特定建設作業の届出	1(写)	必17-1	施工計画書に添付
	15	道路使用許可証	1(写)		施工計画書に添付
	16	再生資源利用計画書・再生資源利用促進計画書	1	必13-23	施工計画書に添付
	17	中間前金払と部分払との選択に係る届出書	1	様式-22-2	契約締結時(部分払対象工事のみ)
	18	誓約書(市契約における適正な労働条件確保に関する要綱関連)	1	様式-8-2・3	契約締結時(下請契約用は下請契約締結時)
前払金 申請時	19	公共工事前払金申請書	1	様式-22-1	請求しようとするとき 支払希望月の前月15日までに担当課に請求する 旨を事前申出のこと
	20	請求書	1	自由	請求しようとするとき
	21	履行保証証書	1		契約課へ提出
中間 前払金 申請時	22	中間前金払認定請求書	1	様式-22-3	認定を希望するとき
	23	工事履行報告書	1	様式-22-4	認定請求書と同時に提出
	24	中間前金払交付申請書	1	様式-22-5	請求しようとするとき 支払希望月の前月15日までに担当課に請求する 旨を事前申出のこと
部分払金 請求時	25	工事請負代金(部分払)申請書	1	様式-24	請求しようとするとき 支払希望月の前月15日までに担当課に請求する 旨を事前申出のこと
	26	出来高報告書(図面及び実施工程表添付)	1		請求しようとするとき
	27	工事写真	1		請求しようとするとき
	28	請求書	1	自由	請求しようとするとき
工事施工 中	29	段階確認書	1	様式-28	希望日の前日まで
	30	立会願	1	様式-30	希望日の前日まで
	31	休日作業届	1	様式-29	作業予定の前日まで
	32	安全訓練等報告(議事録、写真添付)	1		毎月5日までに提出(1回/月)
	33	工事出来高報告書(実施工程表による)	1		毎月5日までに提出(1回/月)
	34	出来高数量計算書(最終)	1		工期の2週間前まで
	35	承諾図	1		工事施工前
	36	工事打合せ簿	2(1部返却)	様式10-2	7日以内
工事完了	37	工事完成届兼引渡書	1	様式-26	必要の都度、及び工事完成時
	38	工事写真(施工順・工種毎に整理、コメント・計測寸法を記入)	1		
	39	出来高完成図書(平面図、縦断図、横断図、構造図等)	1		
	40	伝票「交通整理員及び使用材料(コンクリート・木材・ アスファルト・土砂・砕石・残土・鉄筋、鉄骨等)」	1(写)		
	41	出来形管理図書(出来形総括表、成果表、 管理図展開図、平坦性試験、舗装厚等)	1	必22-3	
	42	再生資源利用実施書・再生資源利用促進実施書	1	必13-21	
	43	産業廃棄物管理表(モニスト)計量伝票: D、E票(E票は完成後)	1(写)		
	44	産業廃棄物管理票交付状況総括表: 数量原本を添付	1(写)	様式-25	
	45	品質管理図書(生コン、シメント、塩分、CO ₂ 、温度管理、 現場密度、ミルシート、塗膜厚、資材強度試験報告書、保証書等)	1		
	46	工程管理図書(実施工程表(計画工程表に朱書き)、月間工程表)	1		
	47	安全管理図書	1		
	48	社内検査報告書	1		
	49	工事旬報	1	様式-31	
	50	請求書	1	自由	
	51	コリンズの竣工登録	1(写)		検査完了後10日以内

必: 土木請負工事必携 管: 土木工事施工管理基準

監督員と協議のうえ、必要書類を提出すること。

位置図

工事名:新富島橋補修工事

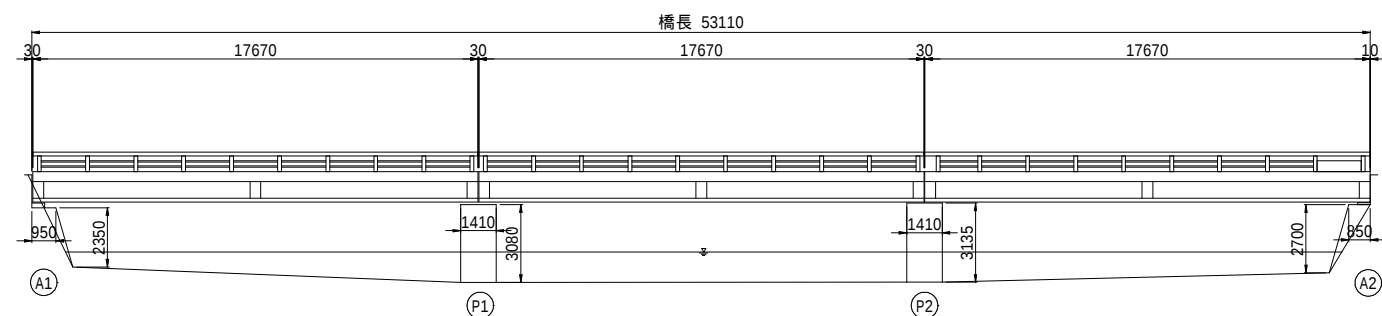
施工箇所:たつの市御津町苅屋地内外



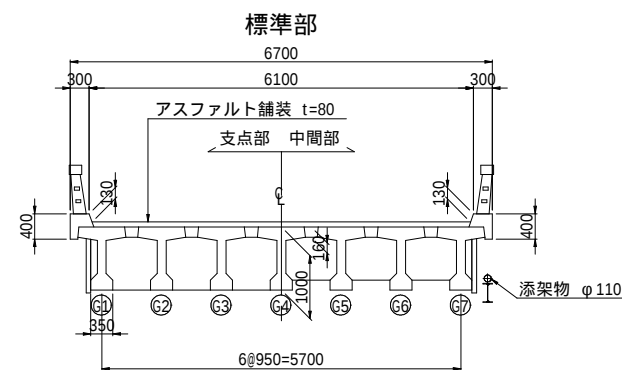
都市建設部建設課

新富島橋 橋梁一般図

側面図 S=1:150

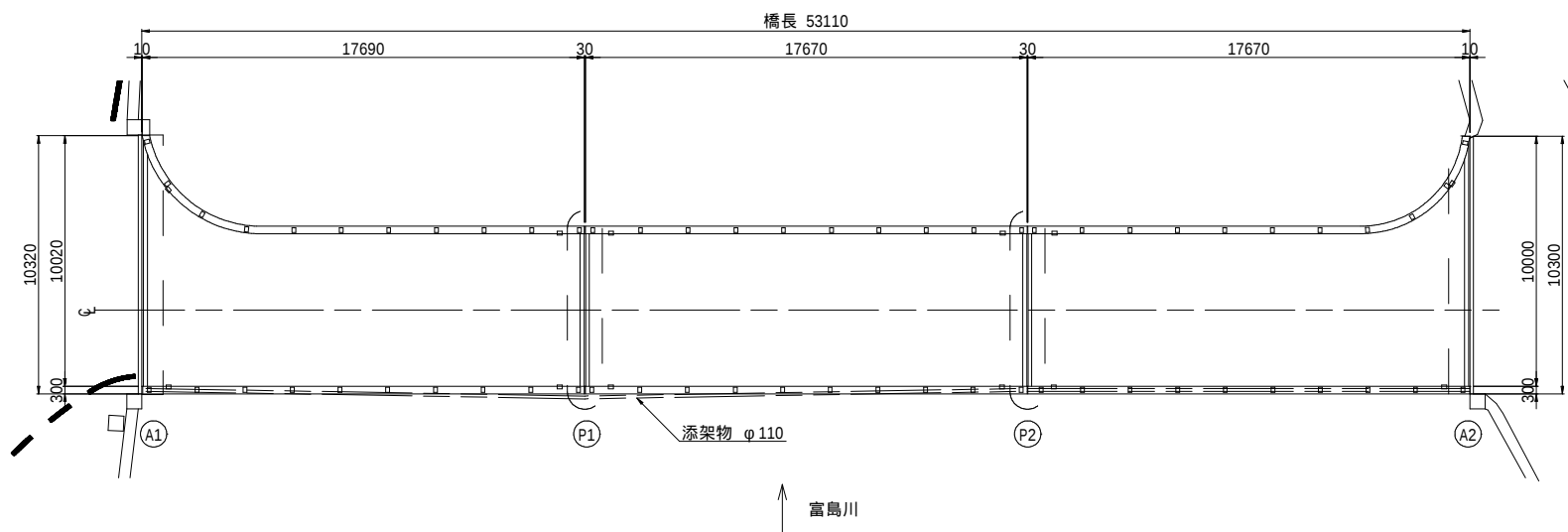


上部工断面図 S=1:60

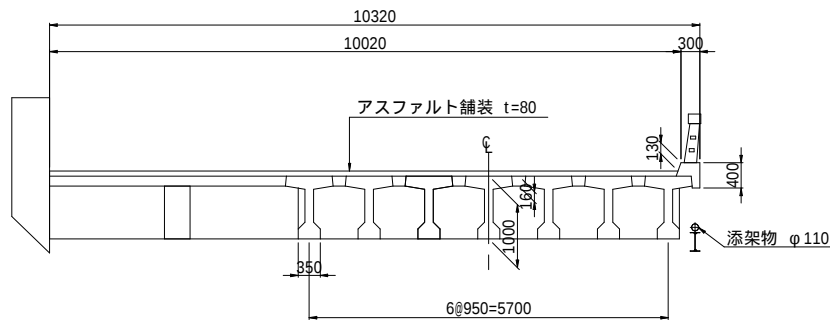


橋 梁 諸 元	
路 線 名	市道苅屋黒崎線
道 路 規 格	一等橋
設 計 活 荷 重	TL-20
形 式	上 部 工 3 径間単純プレテンション方式PCT桁橋
	下 部 工 逆T式橋台、壁式橋脚
	基 礎 工 直接基礎
橋 長	53.110m
有 効 幅 員	6.100m
適 用 方 書 (想 定)	昭和43年 プレストレスコンクリート 道路橋示方書
竣工年	昭和48年(1973年)

平面図(橋面) S=1:150

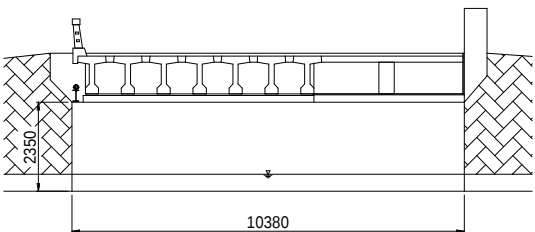


A1, A2端支点部

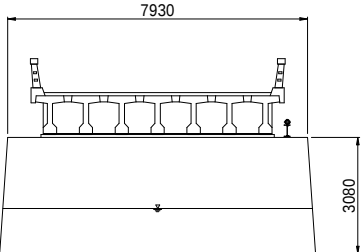


下部工断面図 S=1:100

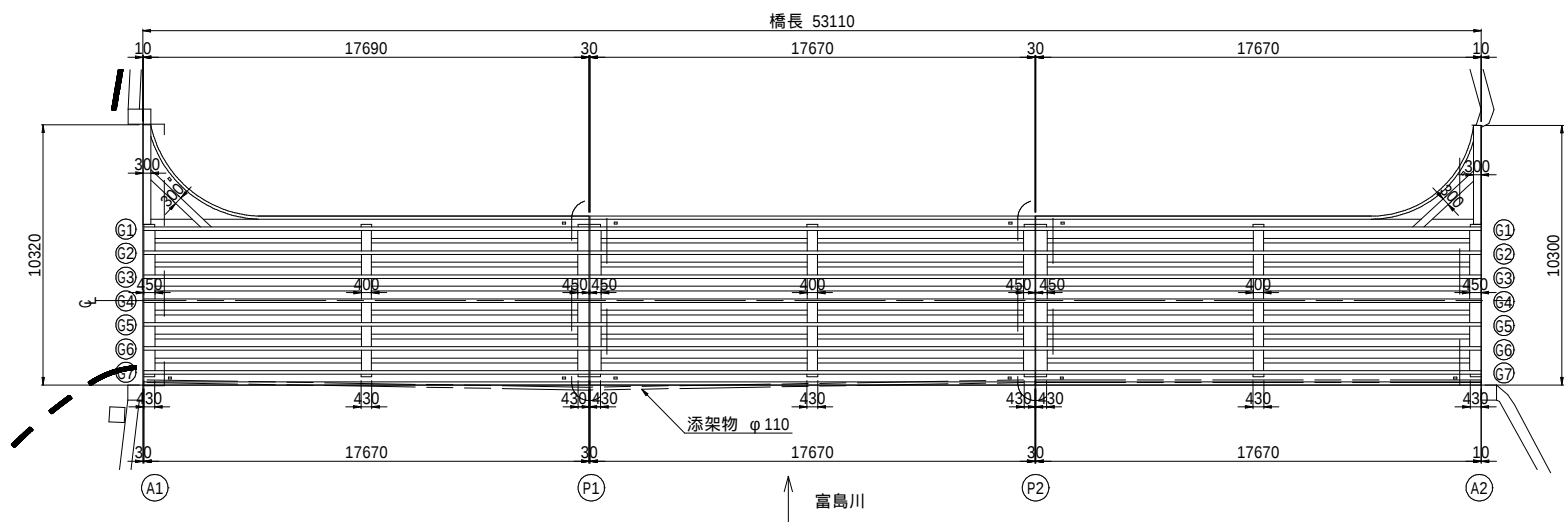
A1橋台



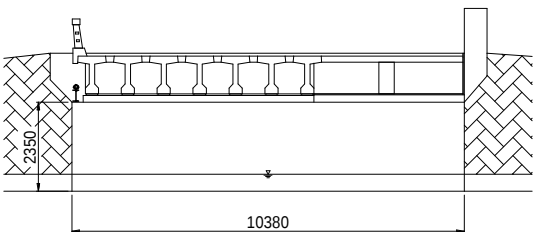
P1橋脚



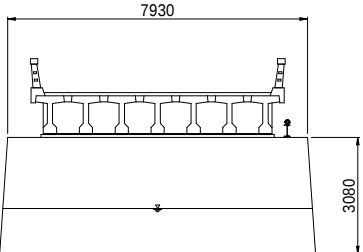
平面図(桁下面) S=1:150



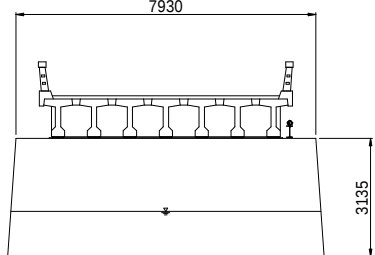
A1橋台



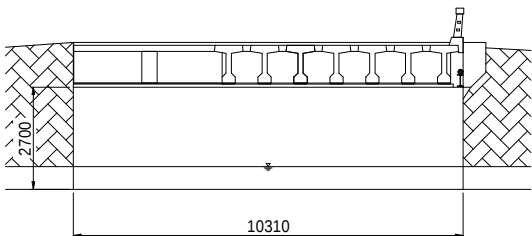
P1橋脚



P2橋脚



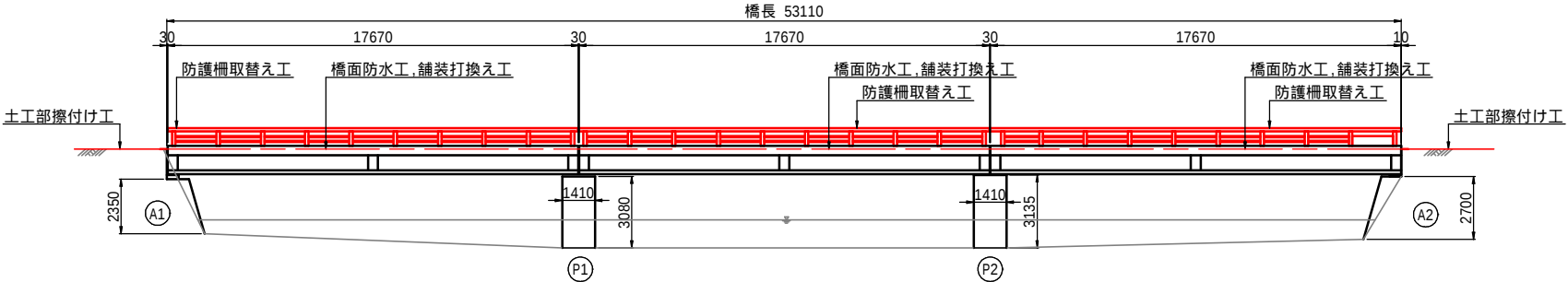
A2橋台



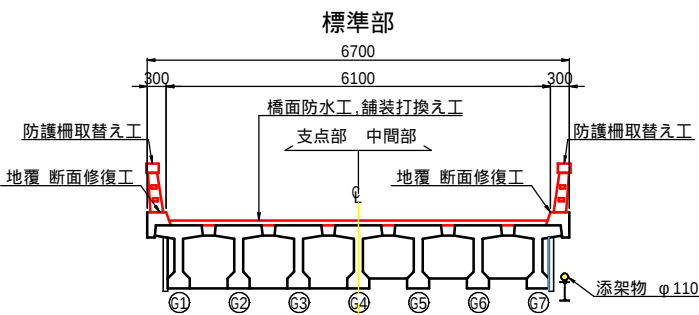
令和5年度 公 共 事 業		新富島橋補修工事	
市道苅屋黒崎線			
たつの市御津町苅屋地内外			
橋梁一般図		1	業 全 11
縮尺 図示			
たつの市			

新富島橋 補修一般図

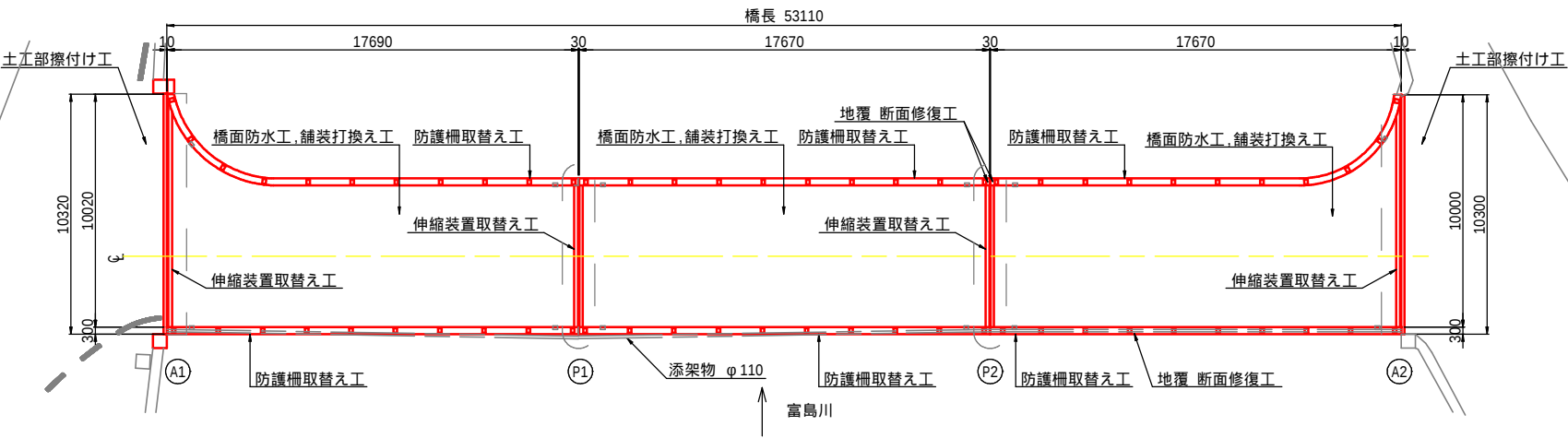
側面図 S=1:150



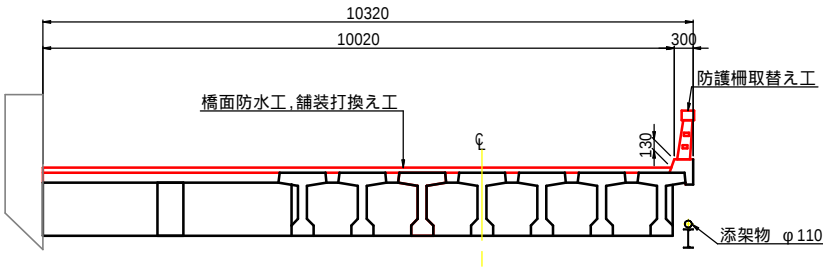
上部工断面図 S=1:60



平面図(橋面) S=1:150



A1, A2端支点部



橋 梁 諸 元	
路 線 名	市道苅屋黒崎線
道 路 規 格	一等橋
設 計 活 荷 重	TL-20
形 式	上 部 工 3 径間単純プレテンション方式PCT桁橋
	下 部 工 逆T式橋台、壁式橋脚
	基 礎 工 直接基礎
橋 長	53.110m
有 効 幅 員	6.100m
適 用 示 方 書 (想 定)	昭和43年 プレストレスコンクリート 道路橋示方書
竣工年	昭和48年(1973年)

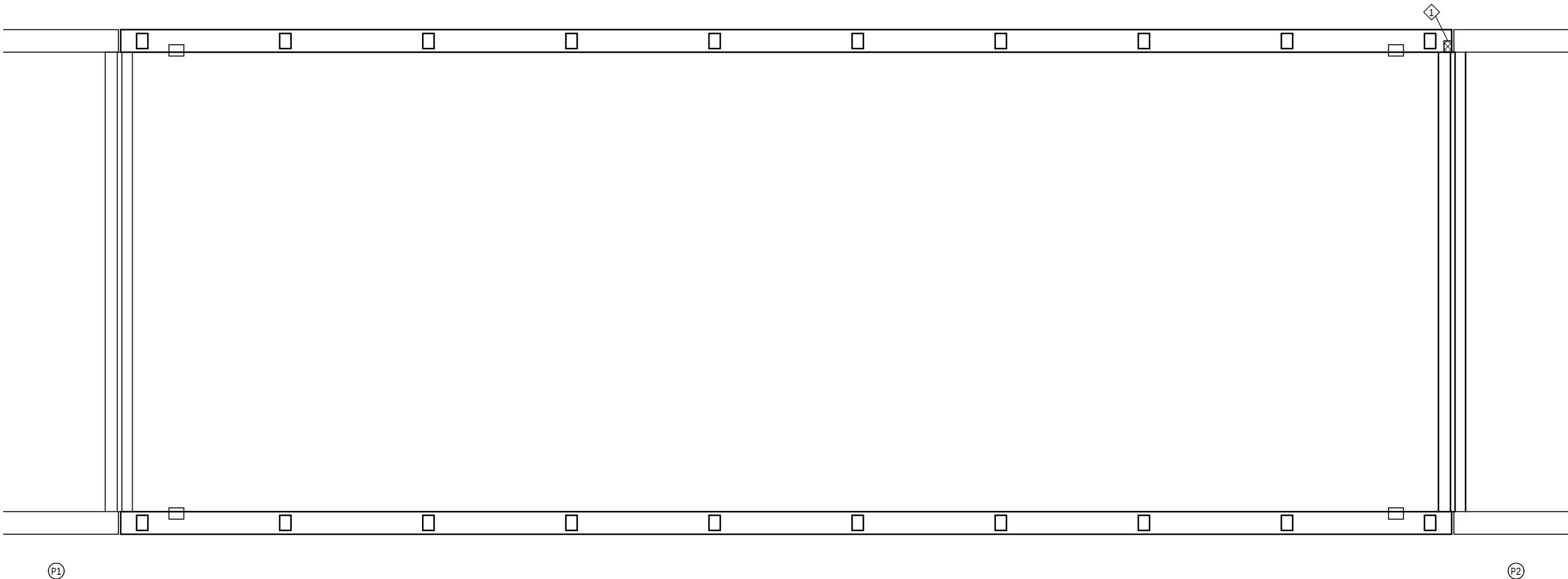
補修箇所一覧表

部材		損傷内容	補修項目
橋面工	舗装	路面の凹凸, ひびわれ うき, すき間	橋面防水工 舗装打換え工 土工部擦付け工
	防護柵	ひびわれ, 欠損 うき, 鉄筋露出	防護柵取替え工
	伸縮装置	ひびわれ, うき・剥離 脱落, 劣化・土砂詰まり	伸縮装置取替え工
	地覆	うき, 剥離, 欠損	断面補修工

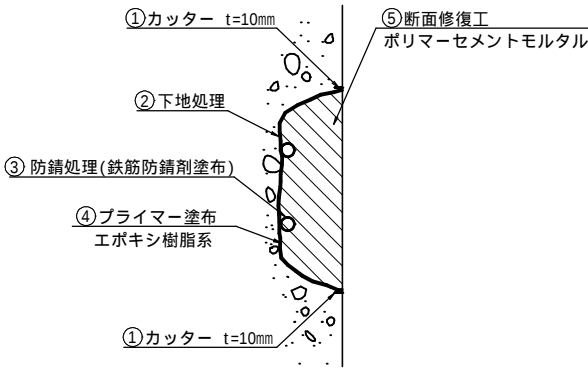
令和5年度 公共事業		新富島橋補修工事	
市道苅屋黒崎線			
たつの市御津町苅屋地内外			
補修一般図	2	業 全 11	
縮尺 図示			
たつの市			

新富島橋 コンクリート補修工図(その1)

2径間 橋面 S=1:30



断面修復工詳細図



- 1.はつり・鉄筋ケレン

2.下地処理

3.プライマー塗布

4.鉄筋防錆処理

5.断面修復（左官工法）

6.養生・仕上げ
- はつり箇所決定後カッターを用い、矩形に目地切を行う。電動ピック等で所定の深さまではつり、はつり完了後、ケレンハンマー等で脆弱部がないか確認を行う。錆鉄筋部をワイヤーブラシ、ディスクサンダー等を用い、完全に除去する。

埃、錆等をワイヤーブラシや圧縮空気等で除去し、健全なコンクリート下地を出す。充分に下地、鉄筋を清掃する。

はつり出したコンクリート面に刷毛を用いてプライマーを塗布する。

鉄筋の錆を落とし、防錆材を塗布する。

ポリマーセメントモルタルを左官工法にて断面修復する。

表面は後工程がないため、平坦に仕上げる。

注意事項

- 1) 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度、コンクリートカッターにより切断目地を入念に施工する。
- 2) 剥離・豆板部は、うき・ぜい弱部分をはつり取り、鉄筋が見えた場合は、鉄筋防錆処理後、欠損断面を補修する。
- 3) 鋼材露出部は、はつり後、鉄筋の防錆処理を入念に行った後、断面補修する。
- 4) 断面修復材
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [工法別マニュアル編]平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

断面修復工一覧表

番号	損傷の種類	損傷範囲		箇所	面積 (m2)	備考
		縦(mm)	横(mm)			
◇	剥離	100	× 150	1	0.015	地覆01
合計					0.015	

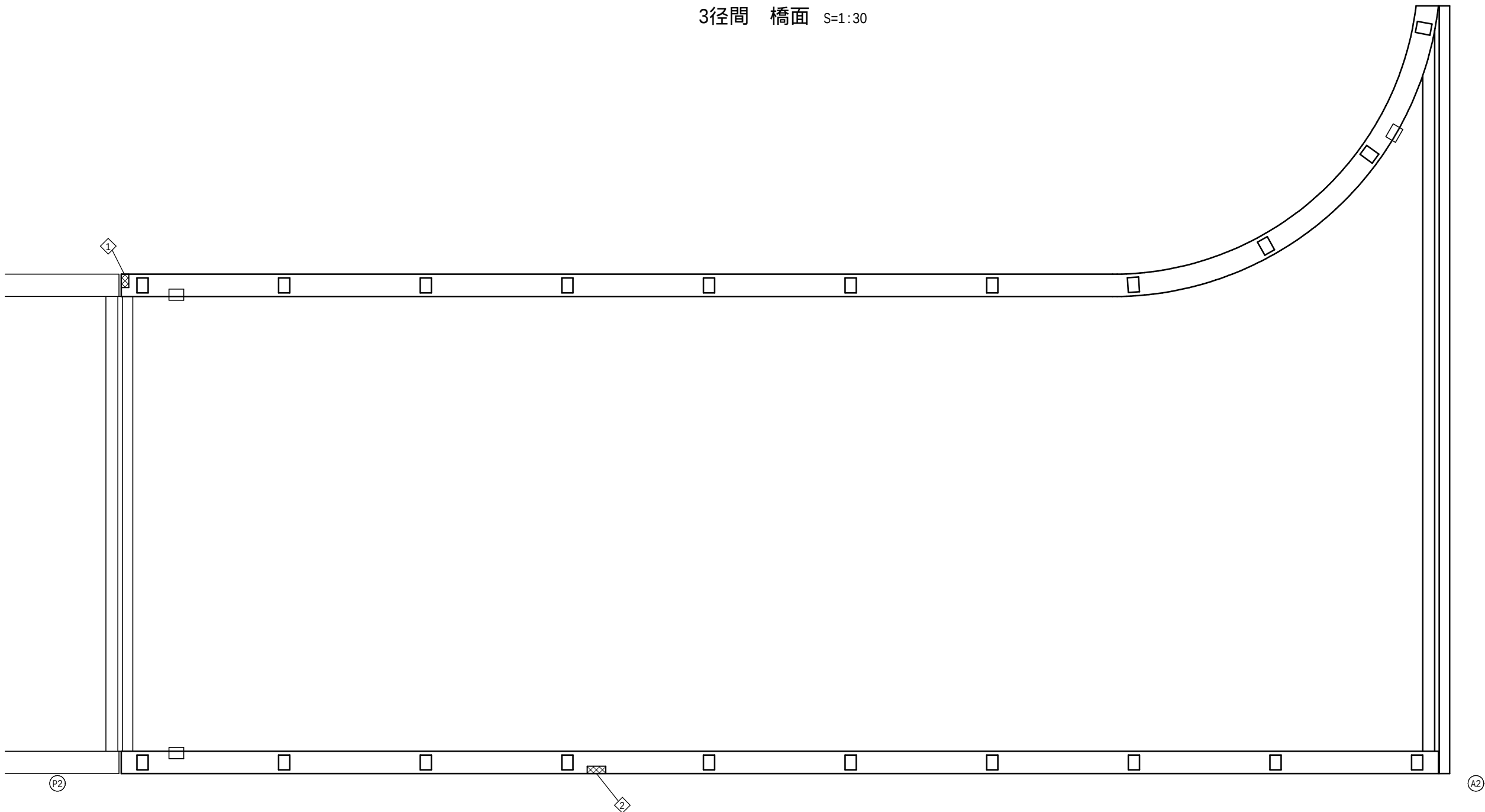
補修 凡例

損傷の種類	表示
断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)	◇

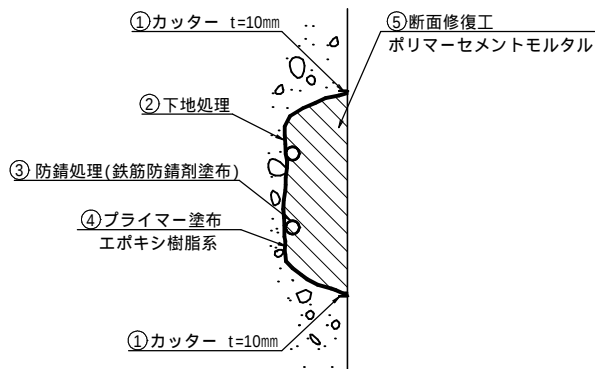
令和5年度 公共事業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
コンクリート補修工図 (その1)	3 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

新富島橋 コンクリート補修工図(その2)

3径間 橋面 S=1:30



断面修復工詳細図



1. はつり・鉄筋ケレン	はつり箇所決定後カッターを用い、矩形に目地切を行う。電動ピック等で所定の深さまではつり、はつり完了後、ケレンハンマー等で脆弱部がないか確認を行う。錆鉄筋部をワイヤーブラシ、ディスクサンダー等を用い、完全に除去する。
2. 下地処理	埃、錆等をワイヤーブラシや圧縮空気等で除去し、健全なコンクリート下地を出す。充分に下地、鉄筋を清掃する。
3. プライマー塗布	はつり出したコンクリート面に刷毛を用いてプライマーを塗布する。
4. 鉄筋防錆処理	鉄筋の錆を落とし、防錆材を塗布する。
5. 断面修復（左官工法）	ポリマーセメントモルタルを左官工法にて断面修復する。
6. 養生・仕上げ	表面は後工程がないため、平坦に仕上げる。

断面修復工一覧表

番号	損傷の種類	損傷範囲		箇所	面積 (m2)	備考
		縦(mm)	横(mm)			
①	鉄筋露出	100	× 180	1	0.018	地覆01
②	欠損	250	× 100	1	0.025	地覆02
合計					0.043	

注意事項
1) 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度、コンクリートカッターにより切断目地を入念に施工する。
2) 剥離・豆板部は、うき・ぜい弱部分をはつり取り、鉄筋が見えた場合は、鉄筋防錆処理後、欠損断面を補修する。
3) 鋼材露出部は、はつり後、鉄筋の防錆処理を入念に行った後、断面補修する。
4) 断面修復材
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設 計施工指針(案) [工法別マニュアル編]平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

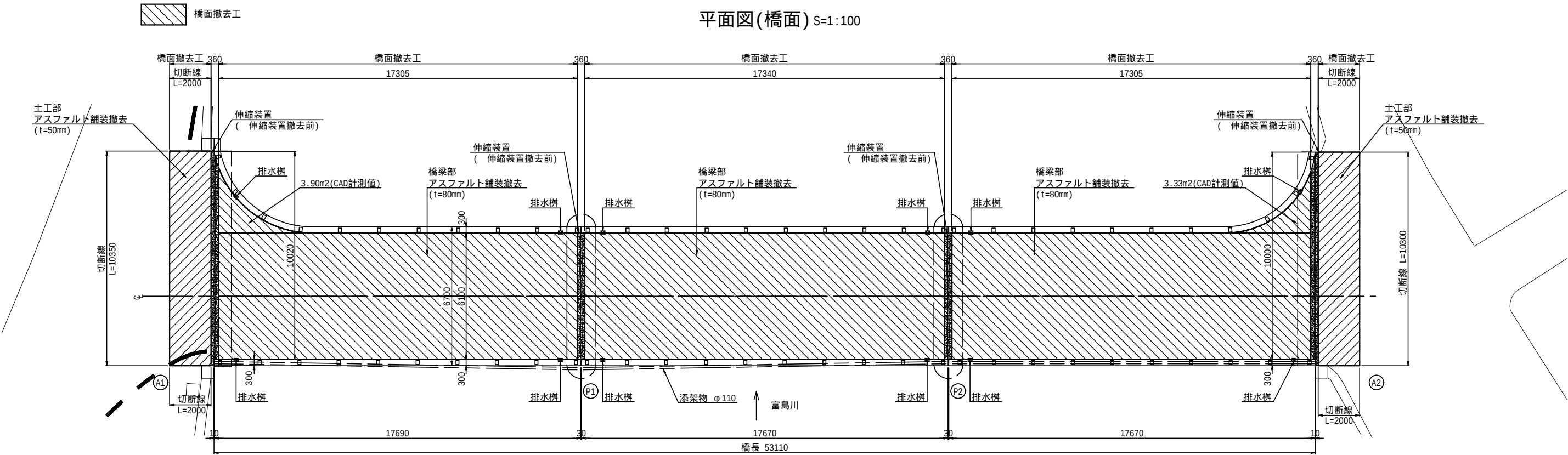
補修 凡例	
損傷の種類	表示
断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)	①

令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
コンクリート補修工図 (その2)	4 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

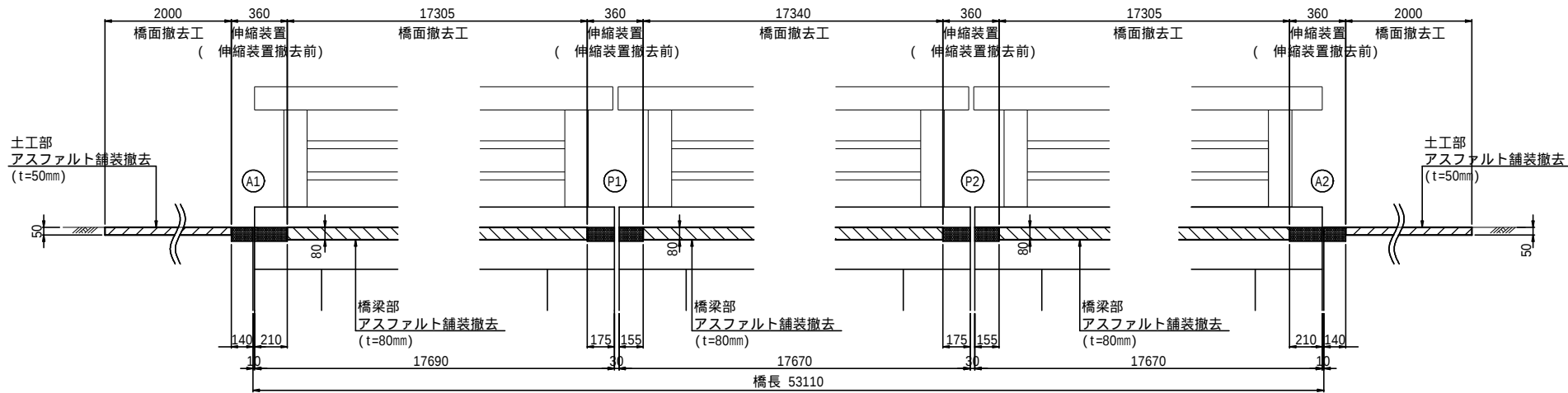
新富島橋 橋面防水工・舗装打換工図(その1) S=1:100

橋面撤去工

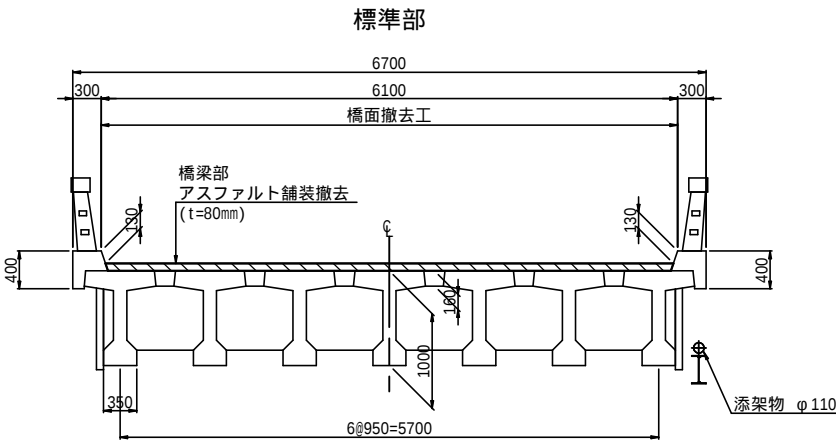
平面図(橋面) S=1:100



伸縮部詳細図 S=1:20



上部工断面図 S=1:40



(橋梁部)橋面撤去工

名 称	仕様・寸法	単位	種別	数 量	備 考
廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	車道部	25.9	t=80mm
路面切削工	アスファルト舗装	m2	車道部	324.1	t=80mm

(土工部)橋面撤去工

名 称	仕様・寸法	単位	種別	数 量	備 考
廃材運搬・処理	アスファルト舗装	m3	車道部	2.07	t=50mm
舗装版破碎工	アスファルト舗装	m2	車道部	41.3	t=50mm
舗装版切断工	アスファルト舗装	m	車道部	28.7	t=50mm

(注意事項)

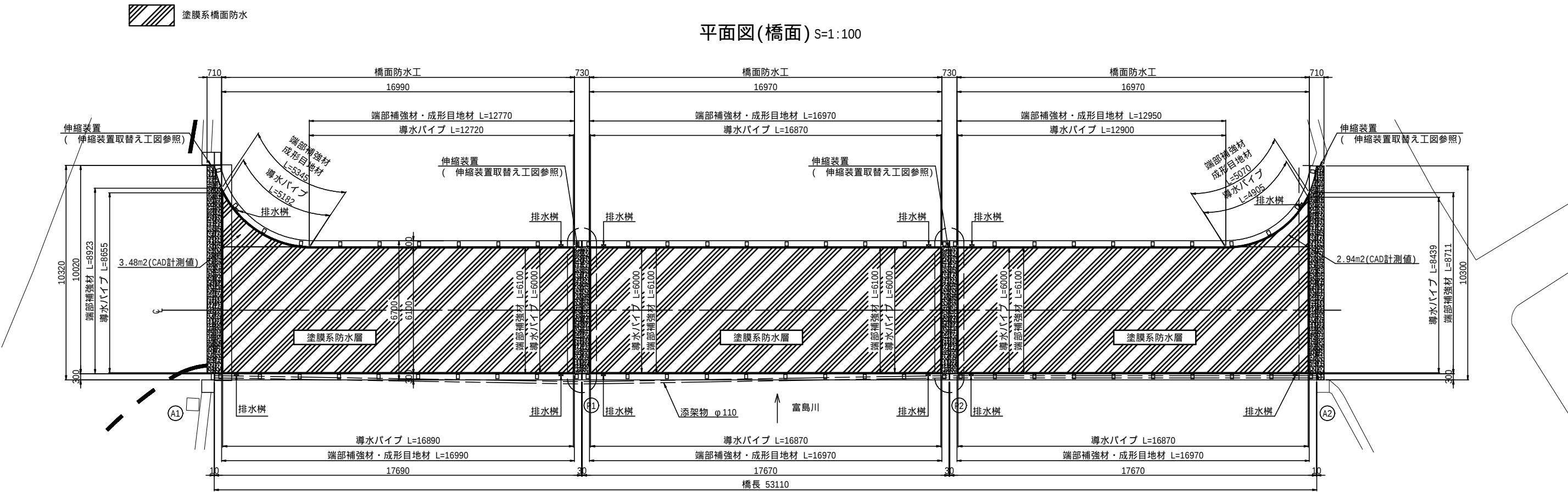
1. 本図面は、点検調査および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。

令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
橋面防水工・舗装打換工図 (その1)	5 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

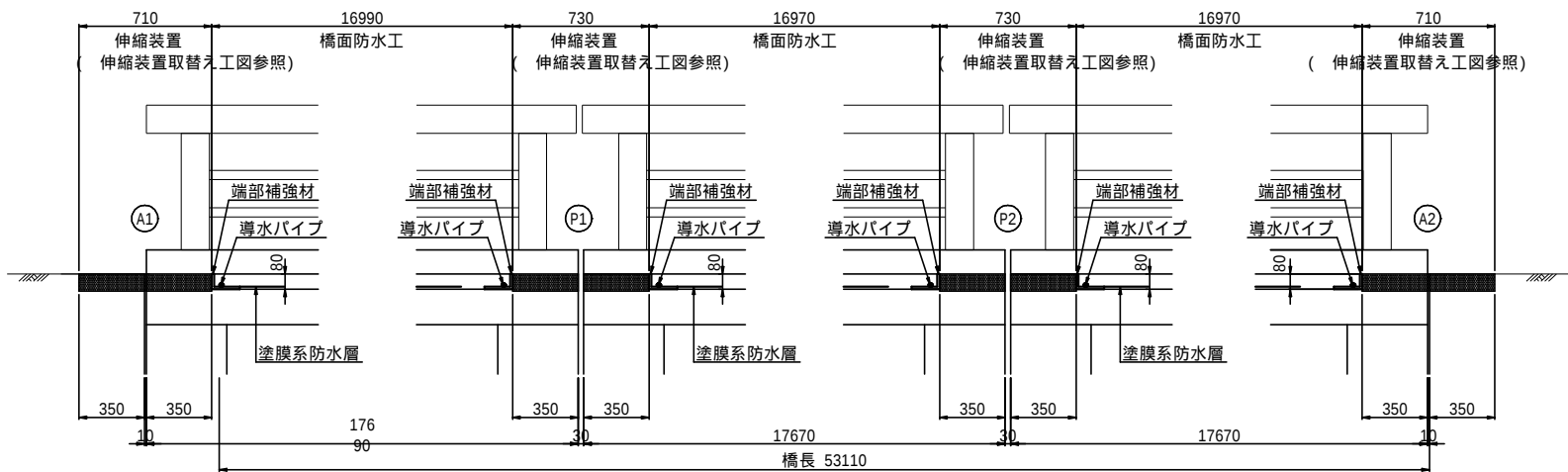
新富島橋 橋面防水工・舗装打換工図(その2)

橋面防水工

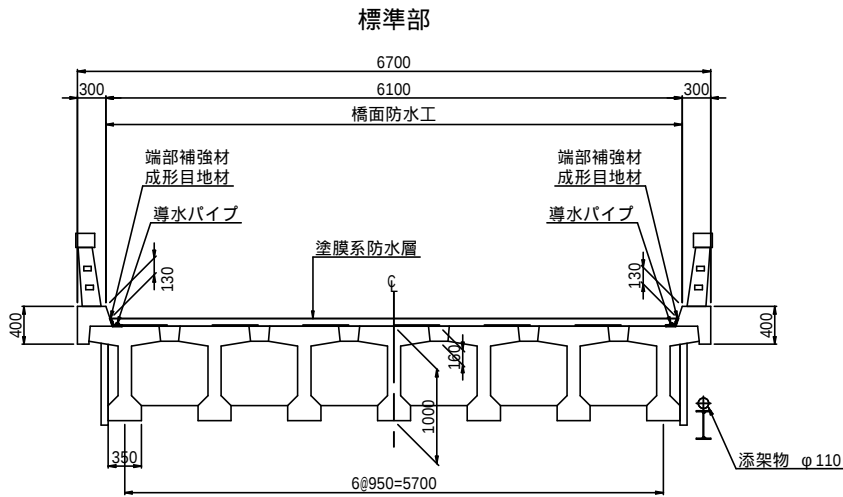
平面図(橋面) S=1:100



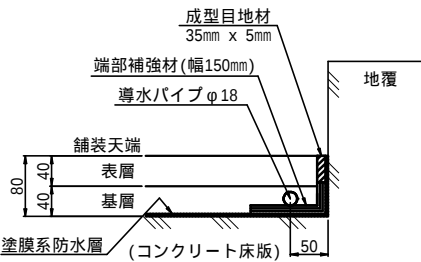
伸縮部詳細図 S=1:20



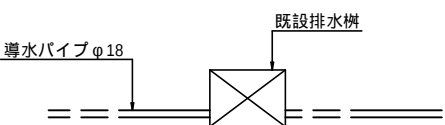
上部工断面図 S=1:40



端部処理構造図 S=1:5



排水詳細 S=1:10



橋面防水材料表

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面防水	塗膜系防水層	m ²	317.1	
導水パイプ	フレキドレーンP同等品以上	m	144.3	φ18溶融亜鉛めっき鋼製
成型目地材	ゼロシールSS同等品以上	m	104.0	幅35mm,厚5mm
端部補強材	シルバーマッシュ同等品以上	m	146.1	幅150mm

(注意事項)

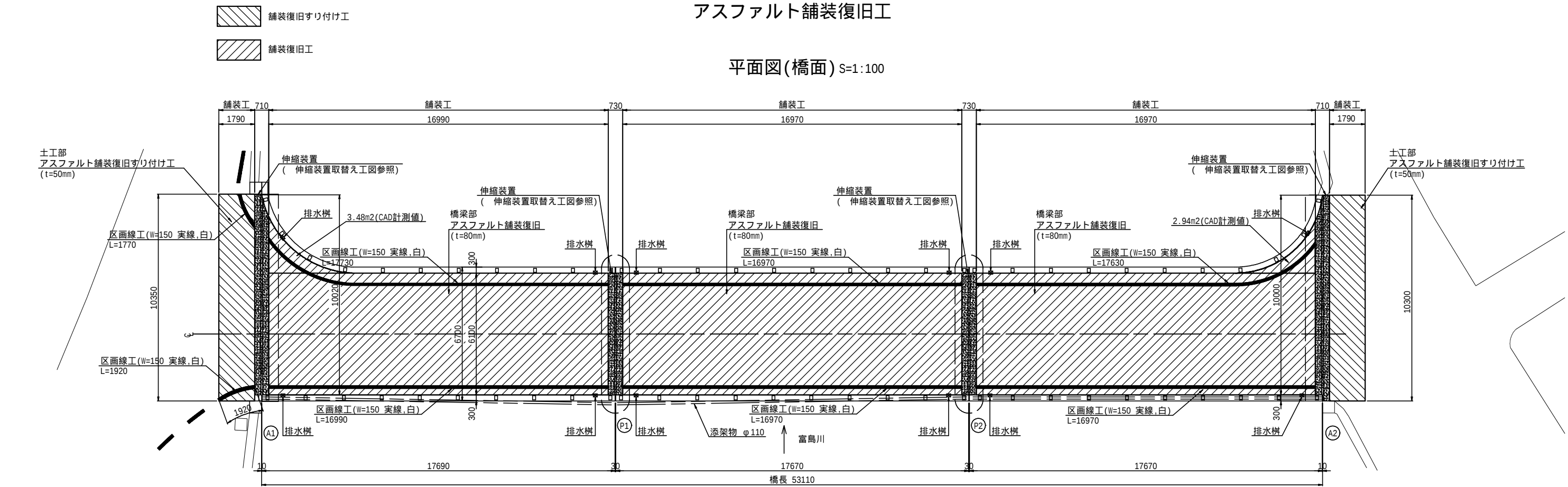
- 本図面は、点検調査および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。

令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
橋面防水工・舗装打換工図 (その2)	6
縮尺 図示	11
たつの市	

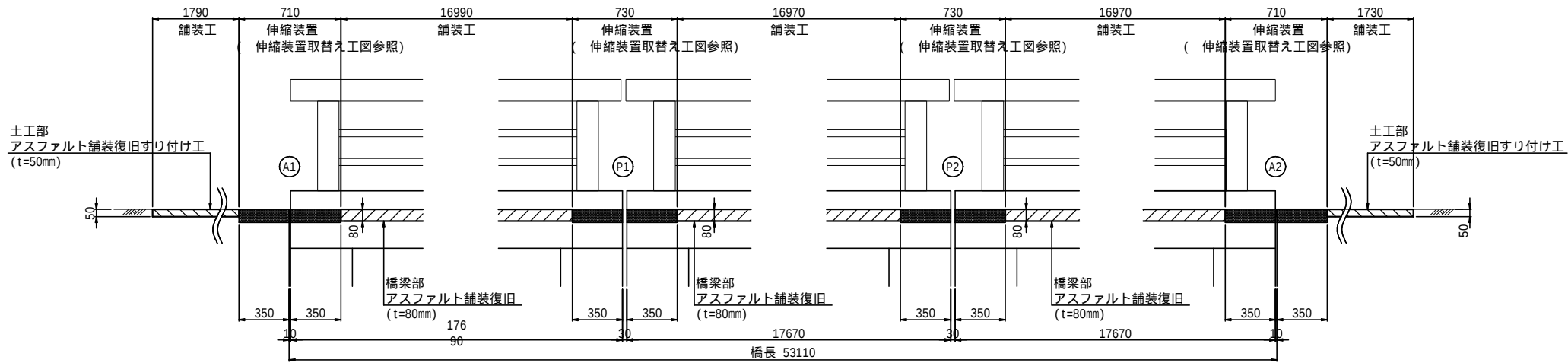
新富島橋 橋面防水工・舗装打換工図(その3)

アスファルト舗装復旧工

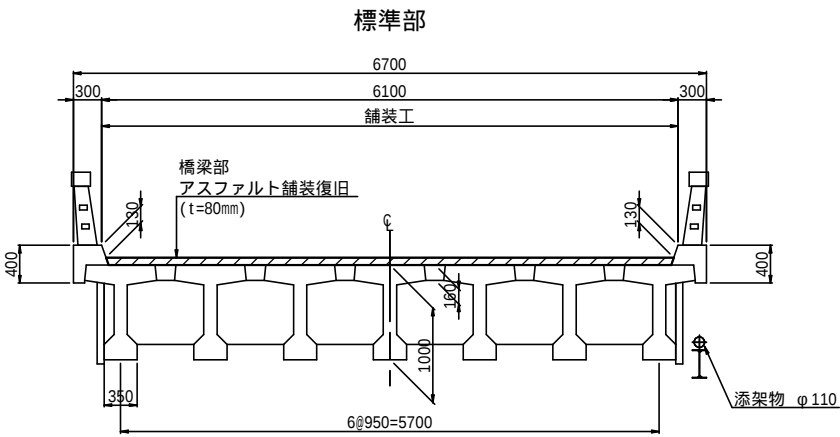
平面図(橋面) S=1:100



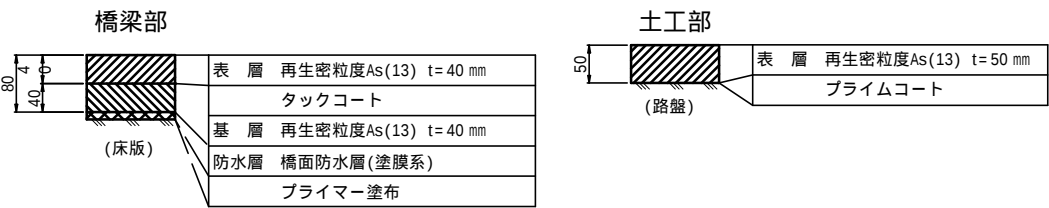
伸縮部詳細図 S=1:20



上部工断面図 S=1:40



舗装構成詳細図



(橋梁部)舗装復旧工

名 称	仕様・寸法	単位	数 量	備 考
舗装復旧工	アスファルト舗装	m ²	317.1	t=80mm(表層40mm+基層40mm)

(土工部)舗装復旧すり付け工

名 称	仕様・寸法	単位	数 量	備 考
舗装復旧すり付け工	アスファルト舗装	m ²	37.0	t=50mm(表層50mm)

注意事項

- 対象橋梁の現状舗装厚については、橋梁部t=80mm、土工部t=50mmと仮定する。
舗装打換え後の舗装厚は、橋梁部t=80mm(表層40mm+基層40mm)、土工部t=50mm(表層50mm)とする。
- 舗装については、土工部との摺り付けを行うこと。

区画線工

名 称	仕様・寸法	単位	数 量	備 考
区画線工	W=150(実線,白)	m	106.950	

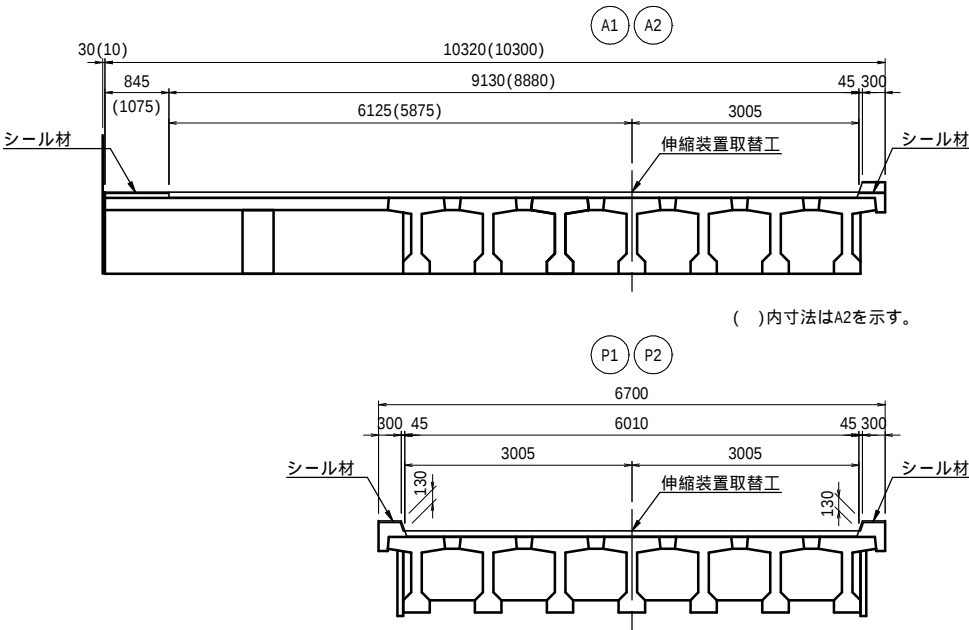
(注意事項)

- 本図面は、点検調査および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。

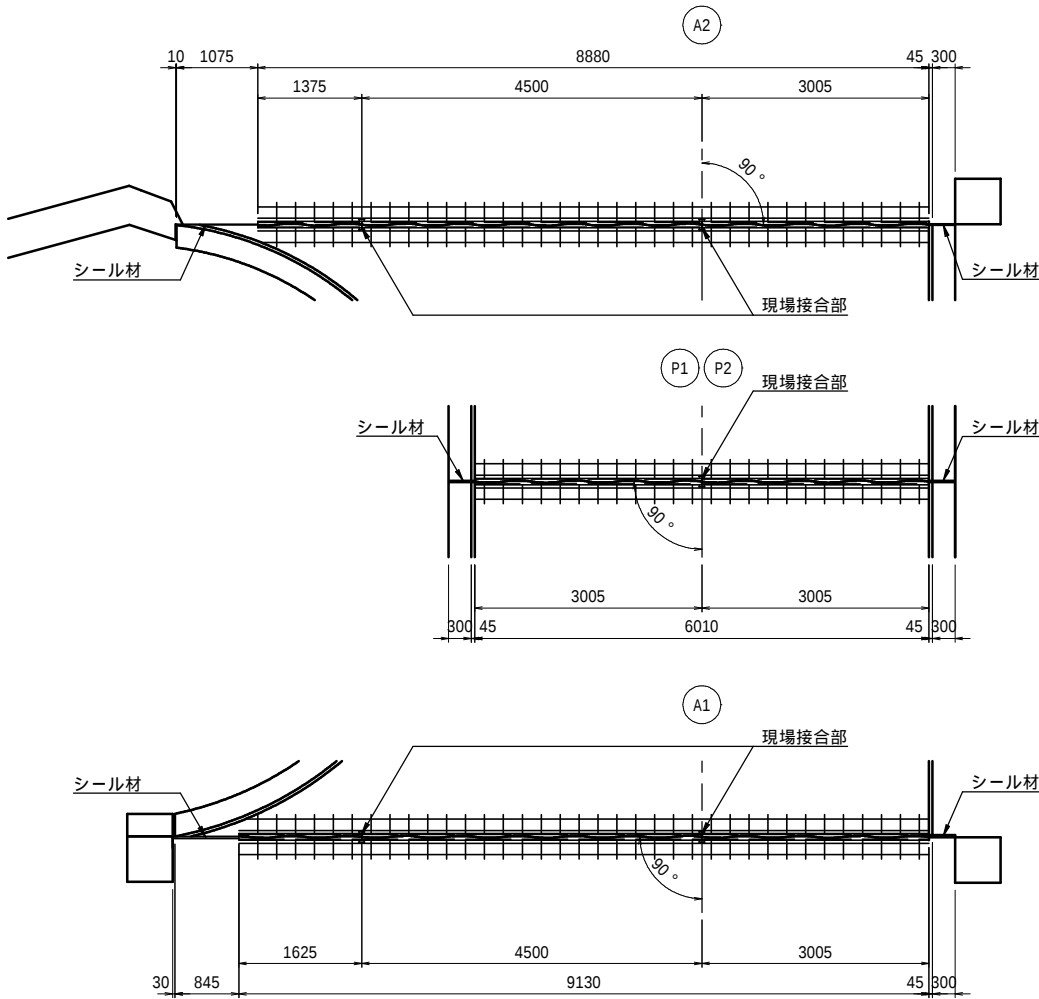
令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
橋面防水工・舗装打換工図 (その3)	7 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

新富島橋 伸縮継手詳細図（参考図）

断面図 S = 1:50

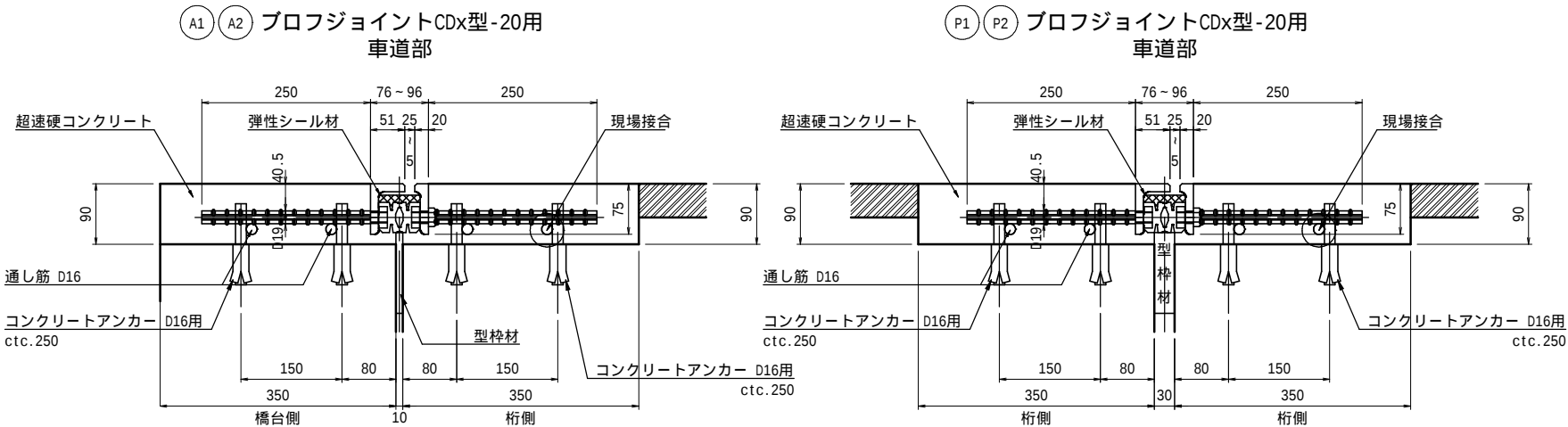


平面図 S = 1:50

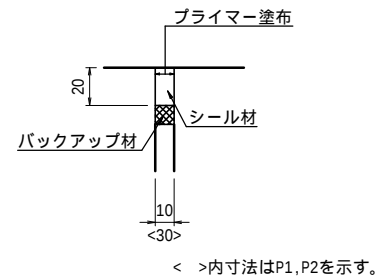


現場接合部は、バックインに接着剤を塗布し接合すること。
また、指定範囲に溶接を施すこと。
寸法値は目地中心を示す。

伸縮継手断面図 S = 1:5

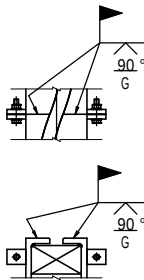


シーラ材充填図 S = 1:2

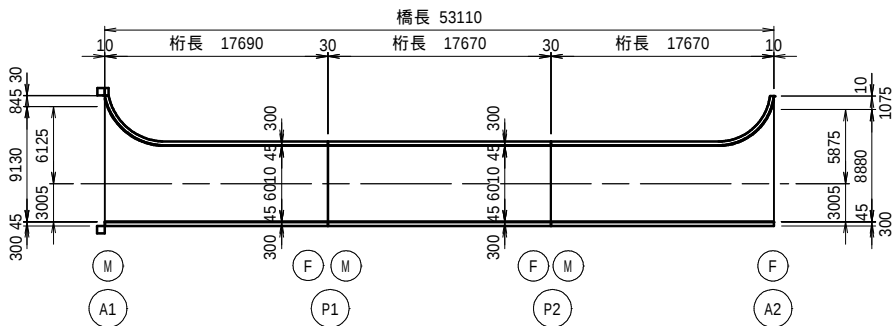


現場接合部詳細

プロフジョイントCDx型



位置図 S = 1:300



伸縮継手材料表

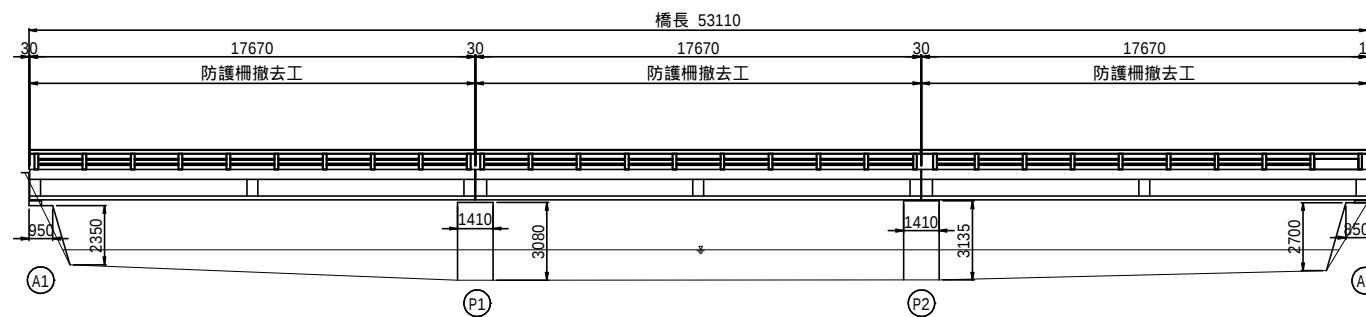
名 称	材 質	A 1 数量	P 1 数量	P 2 数量	A 2 数量	合計数量	備 考
プロフジョイントCDx型-20用	SS400 合成ゴム SD345 弾性シーラ材	9.130 m	6.010 m	6.010 m	8.880 m	30.030 m	車道用
シーラ材	シリコン系	0.24リッター	0.53リッター	0.53リッター	0.29リッター	1.59リッター	地覆部・拡幅部(A1,A2)
バックアップ材	アルタス® ンダ	1.220 m	0.876 m	0.876 m	1.430 m	4.402 m	
超速硬コンクリート	α 3h=24N/mm2	0.575 m3	0.379 m3	0.379 m3	0.559 m3	1.892 m3	
通し筋	SD345	4 本				4 本	D16x9130
"	"		4 本	4 本		8 本	D16x6010
"	"				4 本	4 本	D16x8880
コンクリートアンカー D16用		144 本	96 本	96 本	140 本	476 本	
CDx型用(20用・車道用)接着剤		1 セット	1 セット	1 セット	1 セット	4 セット	

注) 伸縮継手長さは、現地測量後決定する事。
注) 既設伸縮継手の後打ちコンクリートは撤去する事。
注) カッター幅及びはつり深さは、現地確認の上、決定の事。
注) コンクリートアンカーは、翼鉄筋ピッチに沿って配置の事。

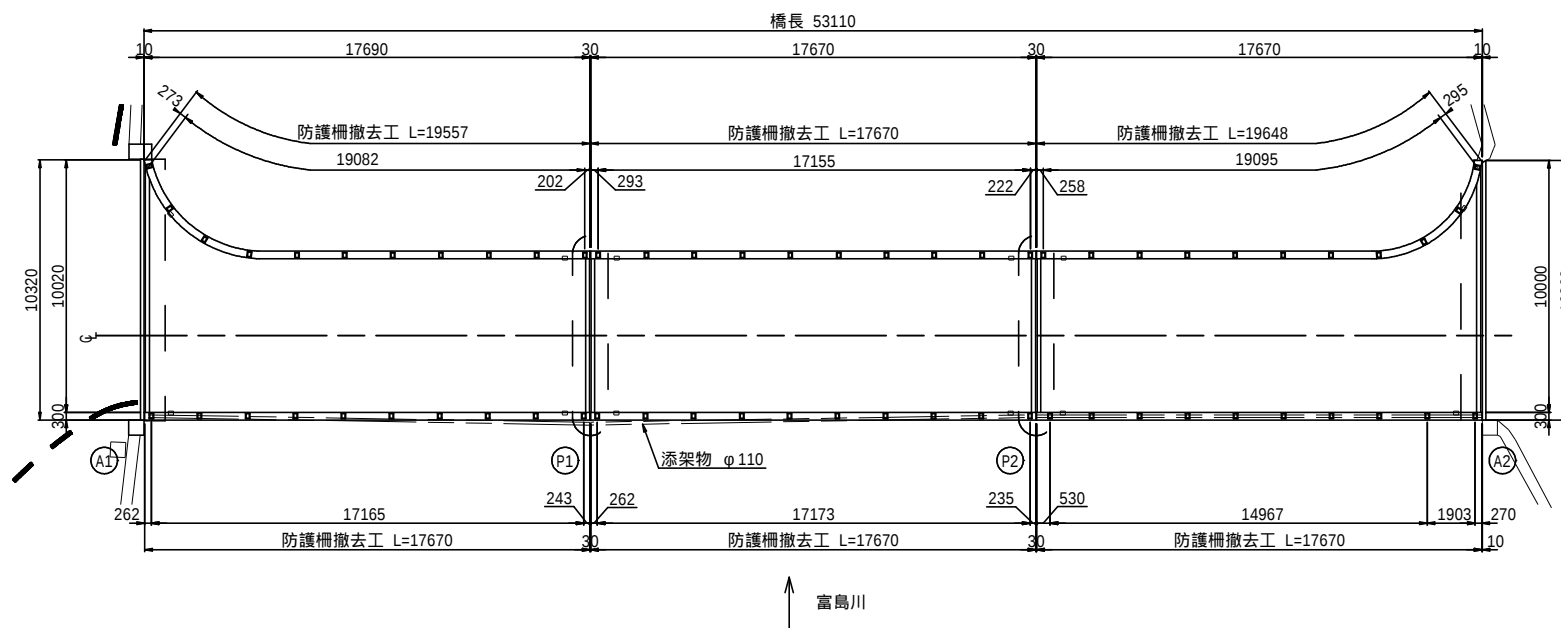
令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
伸縮継手詳細図 (参考図)	8 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

新富島橋 防護柵撤去工図

側面図 S=1:150

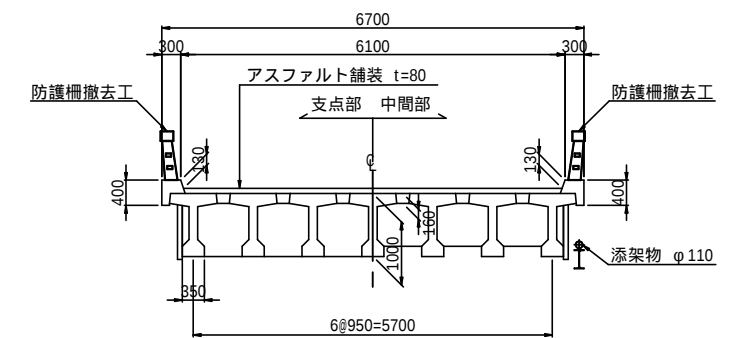


平面図(橋面) S=1:150



上部工断面図 S=1:60

標準部

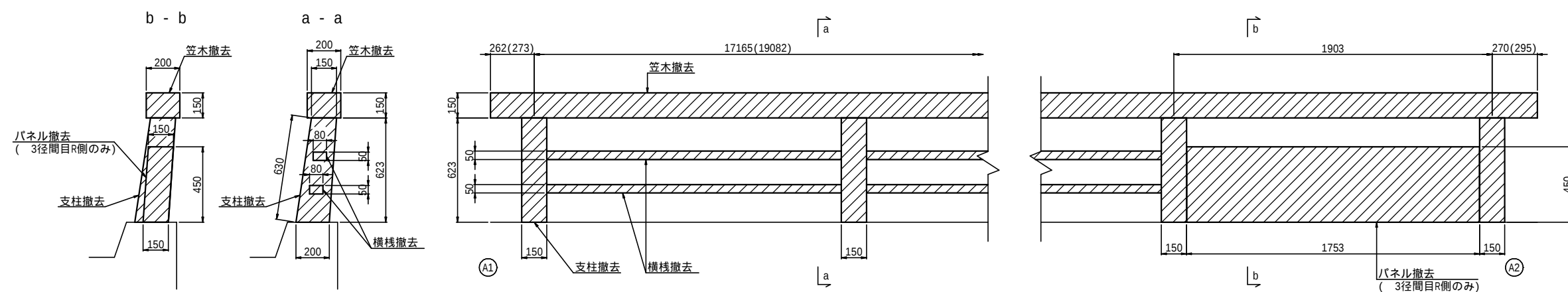


防護柵撤去工

(A1-A2径間)

名 称	仕様・寸法	単位	数 量	備 考
防護柵撤去工	撤去延長	m	109.9	
コンクリート取壊し工	鉄筋コンクリート	m3	5.21	
		t	13.0	

コンクリート防護柵詳細図 S=1:15



()値はL側の数値を示す。

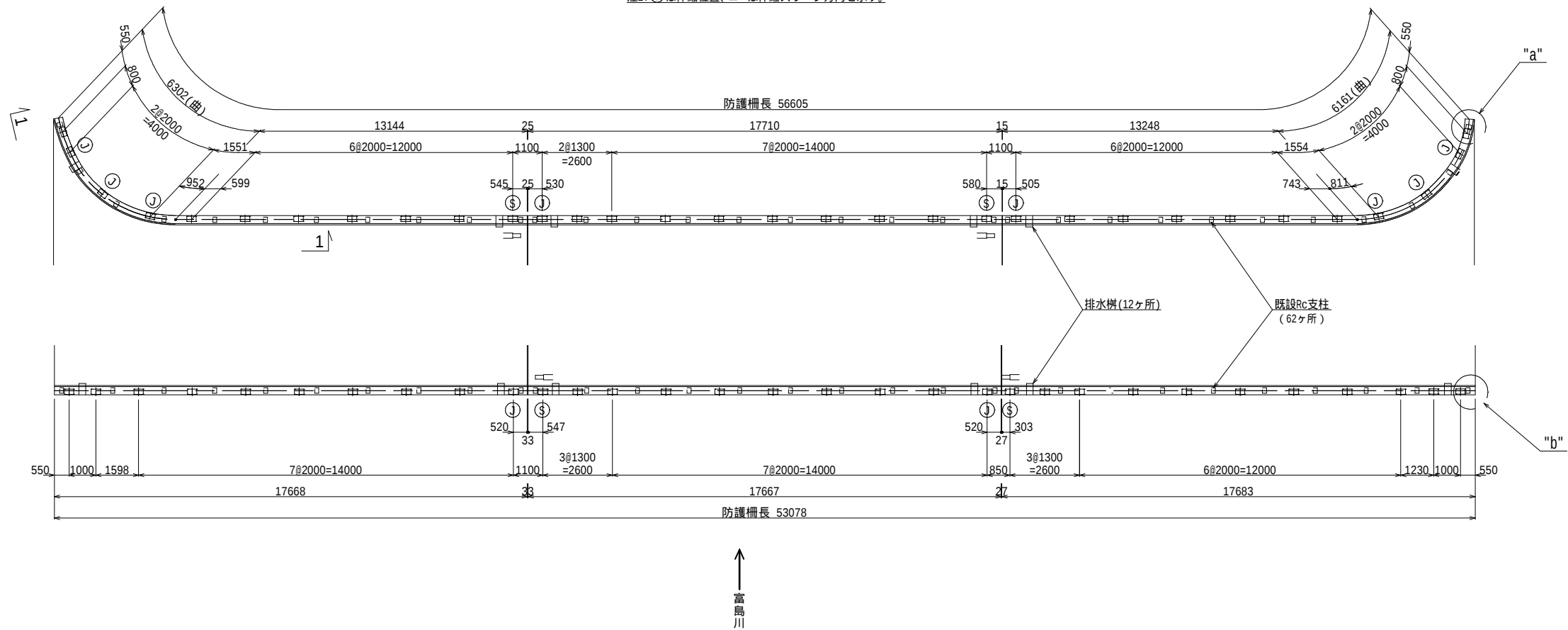
令和5年度 公共事業	新富島橋補修工事	
市道荻屋黒崎線		
たつの市御津町荻屋地内外		
防護柵撤去図	9	業 全
縮尺 図示	11	
たつの市		

新富島橋 防護柵詳細図(その1) (参考図)

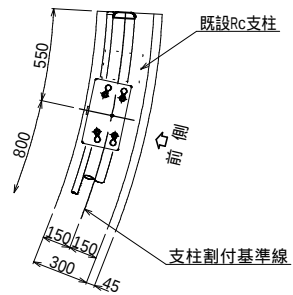
防護柵取替工

支柱割付平面図 S=1:100

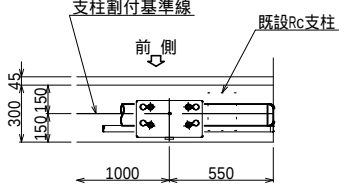
注1. 防護柵長は支柱割付基準位置の実長を示す。
注2. ㊟は伸縮位置、コは伸縮スリーブ方向を示す。



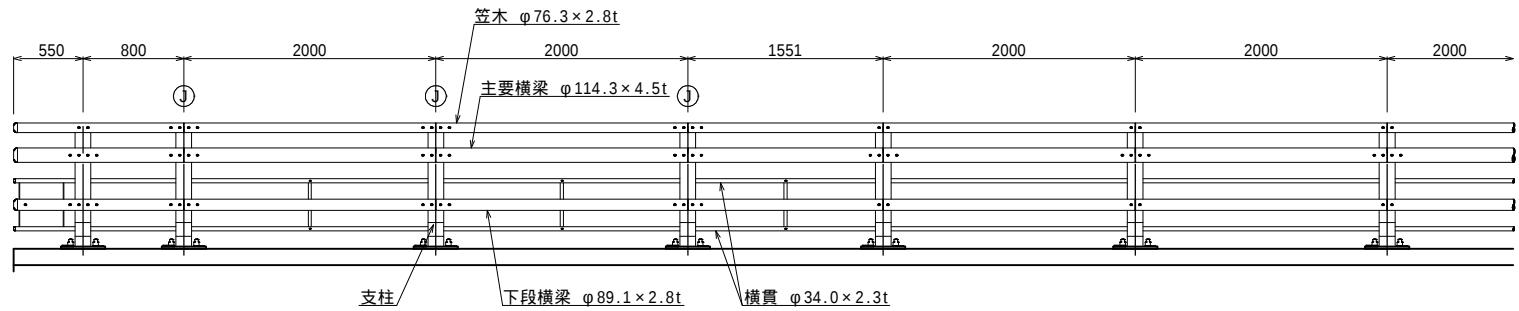
"a"部詳細図 S=1:20
(両端,同じ)



"b"部詳細図 S=1:20
(両端,同じ)



防護柵組立図 S=1:30
1-1 矢視



防護柵設置工数量表

(A1-A2径間)

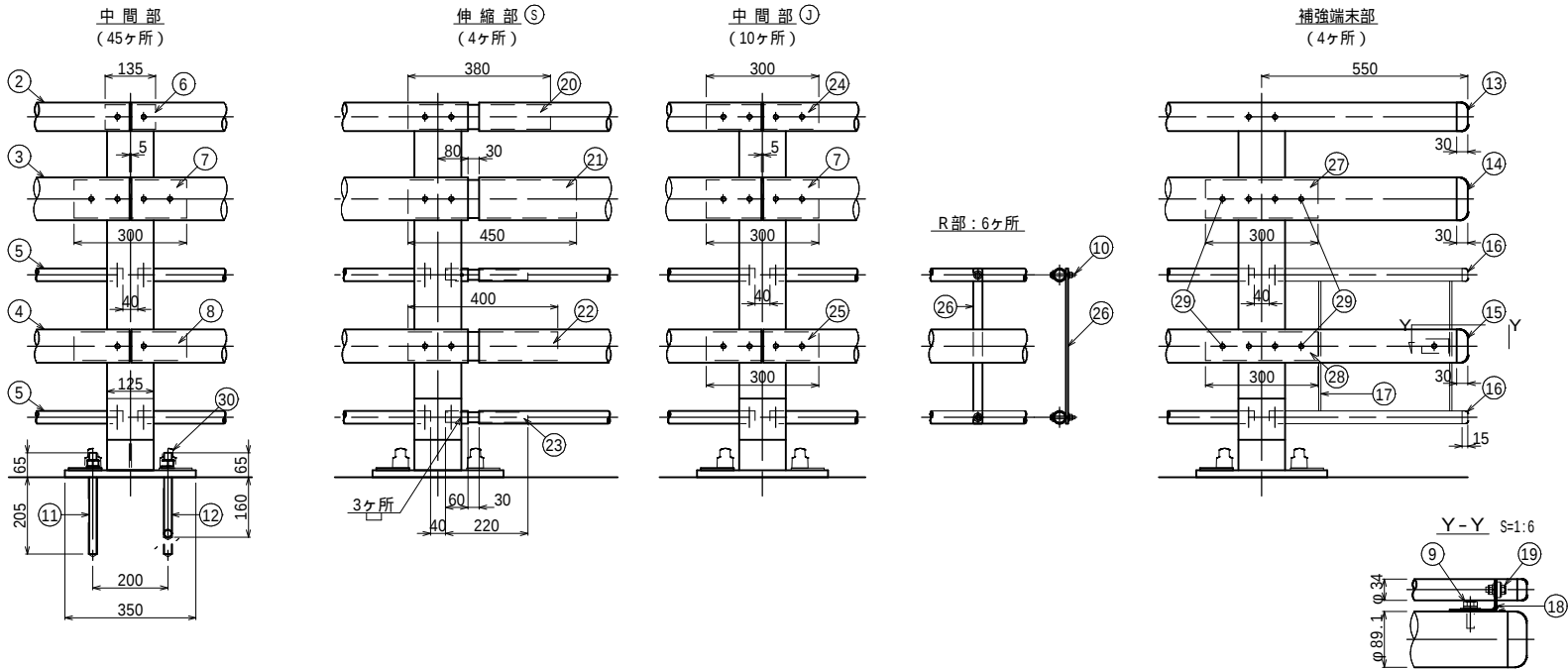
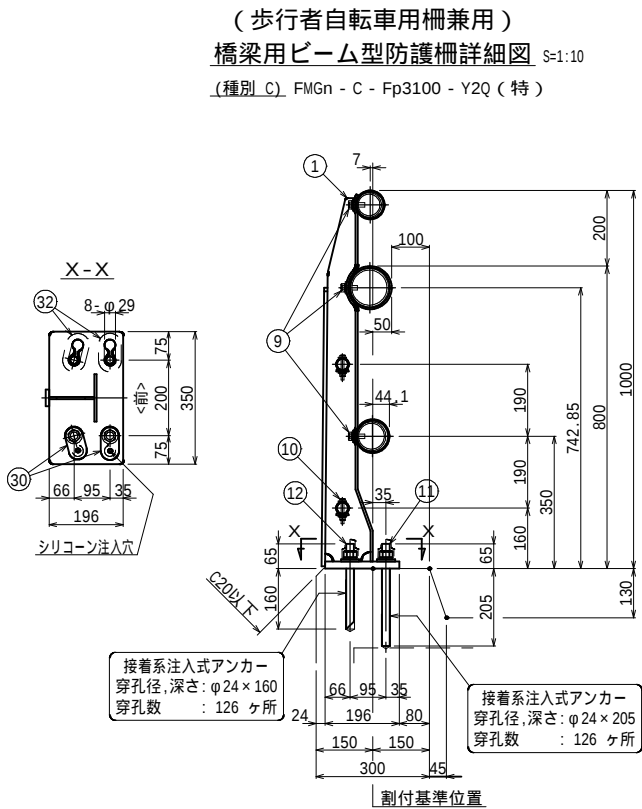
名 称	仕様・寸法	単位	数 量	備 考
防護柵設置工		m	109.7	
アンカー設置工	φ 24x205	箇所	126	
	φ 24x160	箇所	126	
本体設置	通り調整,不陸調整	m	109.7	
アンカー腐食防止策	アンカー孔,キャップ シリコン充填	m	109.7	

製作時、現場検測を行い確認をすること。

令和5年度 公 共 事 業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
防護柵詳細図(その1) (参考図)	10 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	

新富島橋 防護柵詳細図(その2) (参考図)

防護柵取替工



材料表 FMGn - C - Fp3100 - Y2Q (特) (種別 C) 塗装仕様

符号	名称	寸法	材質	単位質量	数量	質量	表面処理
1	支柱	H1000×196×125/350	SS400	20.98	63	1321.7	HDZ35 + 工場塗装
2	笠木	φ 76.3×2.8t	STK400	5.08	109.168 m	554.6	〃
3	主要横梁	φ114.3×4.5t	〃	12.20	109.168 m	1331.8	〃
4	下段横梁	φ 89.1×2.8t	〃	5.96	109.168 m	650.6	〃
5	横貫	φ 34.0×2.3t	〃	1.80	213.966 m	385.1	〃
6	スリーブ	φ 65.0×4.0t×135	〃	0.81	45	36.5	〃
7	〃	φ101.6×4.5t×300	〃	3.23	55	177.7	〃
8	〃	φ 76.3×4.2t×300	〃	2.23	45	100.4	〃
9	取付ボルト	M12×35 (W1, SW1)	強度区分 6.8 以上	0.06	532	31.9	HDZ35
10	〃	M 8×60 (N1, W2, SW1)	強度区分 4.6 以上	0.04	264	10.6	〃
11	アンカーボルト	全径 φ1-M20×270 (N1, SW1)	強度区分 6.8 以上	0.62	126	78.1	〃
12	〃	全径 φ1-M20×225 (N1, SW1)	強度区分 4.6 以上	0.53	126	66.8	〃
13	キャップ	φ 76.3×30	アルミ製	0.24	4	1.0	工場塗装
14	〃	φ114.3×30	〃	0.47	4	1.9	〃
15	〃	φ 89.1×30	〃	0.30	4	1.2	〃
16	〃	φ 34.0×15	〃	0.06	8	0.5	〃
17	支持板	FB 6×25×346	SS400	0.41	8	3.3	HDZ35 + 工場塗装
18	固定金具 <端部>	3t×38	〃	0.09	4	0.4	〃
19	取付ボルト <端部>	M8×25 (N1, W2, SW1)	強度区分 4.6 以上	0.03	4	0.1	HDZ35
20	伸縮用スリーブ	φ 65.0×4.0t×380	STK400	2.28	4	9.1	HDZ35 + 工場塗装
21	〃	φ101.6×4.5t×450	〃	4.85	4	19.4	〃
22	〃	φ 76.3×4.2t×400	〃	2.98	4	11.9	〃
23	〃	φ 27.2×2.3t×220	〃	0.31	8	2.5	〃
24	スリーブ <J部>	φ 65.0×4.0t×300	〃	1.80	10	18.0	〃
25	〃 <〃部>	φ 76.3×4.2t×300	〃	2.23	10	22.3	〃
26	固定板 <R部>	FB 6×25×414	SS400	0.49	6	2.9	〃
27	補強材	φ101.6×4.5t×300	STK400	3.23	4	12.9	HDZ35
28	〃	φ 76.3×4.2t×300	〃	2.23	4	8.9	〃
29	固定ボルト	M12×35 (W1)	強度区分 6.8 以上	0.05	16	0.8	〃
30	座金	6t×48×88	SS400	0.15	252	37.8	HDZ35 + 工場塗装
31	アンカーキャップ	φ42.6×52	PP	—	252	—	—
32	トラックパッキン	10t×60×102	ウレタンスポンジ	—	252	—	—
合計						4900.7 kg	
防護柵長 109.683 m							
・端末処理：4ヶ所 ・伸縮処理：4ヶ所 ・補強端末：4ヶ所 ・たわみ防止処理：6ヶ所							
・R曲げ（R10m未満）：L = 12.463 m							
{ 使用支柱：0%支柱 63本 }							

特記) 橋梁用ビーム型防護柵は(一社)全国高欄協会にて認定された静荷重試験機により性能確認された製品とする。

注 記 1.本防護柵の設計仕様は「防護柵の設置基準・同解説」(令和3年3月)による。

* コンクリート設計基準強度σck = 21 N/mm2 以上

2.本防護柵はアンカー腐食防止型の施工とする。また、

アンカーボルトは地覆鉄筋を回避する仕様とする。

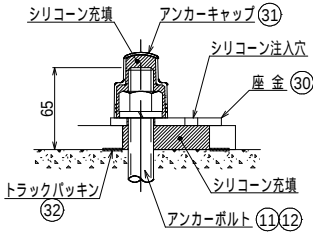
3. M20×270 の先端は 90°寸切形状とする。

4. M20×225 の先端は 45°斜切形状とする。

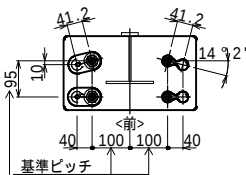
5.充填材(シリコ-ン)は別途手配品とする。

6.接着系注入式アンカーは別途手配品とする。

アンカー腐食防止型施工要領図 S=1:3



アンカーボルトの設置位置



基準ピッチで地覆鉄筋に当たる

場合は外側の位置へ回避する。

製作時、現場検測を行い確認をすること。

令和5年度 公共事業	新富島橋補修工事
市道苅屋黒崎線	
たつの市御津町苅屋地内外	
防護柵詳細図(その2) (参考図)	11 業 全
縮尺 図示	11
たつの市	